

広報

12

2006/December

No.21

しょうばら
Shobara
SHOBARA The Public Information Magazine

“げんき”と“やすらぎ”のさとやま文化都市

伝統行事「お通り」 少女の夢舞台

(11月3日東城の市街地。関連26ページ)

今月の主な内容

- 特集 セカンドライフ…………… 2
- 長期総合計画の答申書が提出…………… 18
- 平成18年度第2回地域審議会…………… 19
- 木材収集システムの実験…………… 20
- 「備北商工会」発足に向け、調印式…………… 21
- シリーズ市の台所事情…………… 22
- 安心・安全な毎日のために…………… 24
- 健康広場「こどもの発熱」…………… 25
- カメラレポート…………… 26
- クローズアップ…………… 32
- あっぱれ！庄原…………… 33
- お知らせ…………… 34
- 発見！しょうばら…………… 40



新たな第2の人生を
夢に向かっていきいきと暮らす人たちがいる。
この団塊世代の大いなるエネルギーは
地域社会の活力となる。

■PHOTO: 古い機器を再生する安部博良さん



特集 SPECIAL

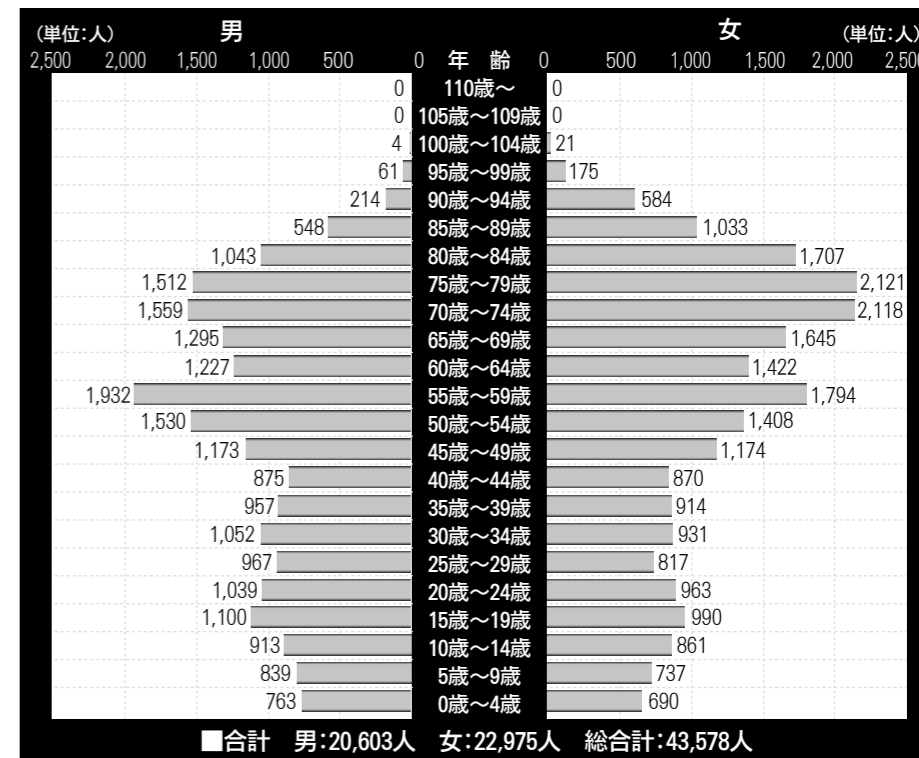
戦後直後の第1次ベビーブームに生まれた団塊の世代(主に昭和22年~24年生まれ)がまもなく還暦を迎え、2007年問題と言われる大量の定年退職が始まります。人口構造では、最も大きな人口集団となる団塊の世代。今日の社会経済活動の中軸であるがゆえに、退職後どのような生き方を選択するのか、様々な分野で注目され、また地域での活動に大きな期待が寄せられています。

新たな第2の人生を見つけ、目標に向かって努力し、地域に活力を与えている人やグループの「生き方」などを紹介し、充実した人生を送る手がかりを探ります。

セカンドライフ

第2の人生をいきいきと暮らそう

■庄原市年齢別人口(平成18年10月31日現在)





明るい雰囲気が評判

ファイルNo.1 事業を興す

地域の食材を生かして 多くの人を呼び込む

田舎料理レストランを開店

前田万里子さん・長瀬利子さん・義志恵美子さん(高野町)



右から前田さん・長瀬さん・義志さん

3人が同じ夢を追いかける

高野町新市に50歳代の女性3人が共同経営する田舎料理レストラン「りんご畑」がある。高野で採れた新鮮な野菜、山菜、りんごをたっぷり使ったメニューが評判のお店だ。代表の前田万里子さん(57)は、夫を病気で亡くすなど家庭の事情で、約32年間勤めたJA庄原を55歳で退職した。定年まで働こうと思っていた前田さんは、突然でしからず退職後のプランを何も考えていなかったという。仕事一筋の毎日、ゆっくり地域を歩くこともなかった前田さんは、退職後改めて高野の過疎化の現状を実感。その寂しさから、「何とか高野へ人を呼び込みたい、女性の力でできることはないか」と思いを巡らすようになった。

津山市から高野町へ嫁いだ当時、高野で採れる山菜や農産物の美味しさに感激した。この感激をぜひ、多くの人に味わってもらいたい、また高野の食材を生かして多くの人を呼び込みたいと、田舎料理レストランを思いついた。「私は料理が苦手」という前田さんは、まず高野の食材をうまく調理してくれるパート

アイデアをカタチに

「どんな店にするか」3人の会議が始まった。「高野の食材をできるかぎり活用したい」「ランチバイキングをしたい」「など、それぞれがアイデアを出し合い、そのモデルとなるような県内外のレストランを食べ歩いた。どの店も同じような味で特徴がないことから、いりこ・かつお・こんぶダシにこだわり、田舎の味・おばあちゃんの味付けを売りにすることを決めた。そして、土・日は田舎料理バイキングで高野を訪れた多くの人に味を楽しんでもらう。平日は地元の人にも受け入れられる定食、これまで高野になかったモーニングサービスとケーキセットを用意するなど、店のコンセプトを固め、経営計画を含めた企画書を作成し、3人が目指す方



▲田舎料理レストラン「りんご畑」

ナー探し。JA庄原を退職したばかりの長瀬利子さん(58)と専業主婦をしていた義志恵美子(53)さんへ声をかけ、自らの夢を語った。

「少し余力があるうちに退職し、次の人生を歩みたい」と考えていた長瀬さんは、農産物の加工品販売をしたいと思っていた。すでに加工所の顔面も完成していたが、「みんなと一緒に田舎料理レストランをする方が楽しそう」と前田さんの夢に乗った。また、健康に不安を持っていた義志さんも、夫の友幸さんから「レストランの土地を提供するから、やってみたら」と背中を押され、平成16年の夏、3人で同じ夢を追いかけることにした。

向を一つにした。

3人は計画に見合う事業資金を出資。建物は地元の建設会社から「3人の夢の実現に協力したい」と支援を受け、格安で建築してもらった。「とにかく、10年間はどんなことがあっても文句を言わない、途中で辞めない、やりぬこう」と3人で契約書を交わした。新しく事業を興すにあたって、親しい仲間は高野ではうまくいかない、経営が成り立たないと声をかけられたが、「そう言われると余計にやっけてやろうと力が沸いてきた」という。

予想を超える反響

3月の大雪で、1カ月遅れの平成17年5月27日にオープン。ヘルシーな食材とむかし懐かしい味が評判となつて、来客数は予想をはるかに超えた。広島市など町外からの



30種類以上の料理が並びランチバイキング(土・日・祝日のみ)

来客が8〜9割を占める。お客様に感想を書いてもらう「らっきょう帳」も9冊目に入り、「なつかしい山菜料理のおいしさだけでなく、居心地の良さが気に入っています」「店の3人の方の明るい雰囲気・笑顔がステキ」などと綴られている。お客と友だちのような関係になって「またくつろぎにきたよ」と言われることが一番の喜び。

3人の生き生きとした姿がテレビ、新聞、雑誌でも取り上げられ、土・日は行列ができる。山菜料理は手間がかかり、翌日の仕込みで夜中の1時をまわることもある。体力的にも厳しいが、忙しいからこそサービスの質を落とさないようにしなければいけないと気を引き締める。そんながんばりに、地元の農家も野菜や果物を差し入れるなど、3人を支えている。



武者小路実篤の書「共に笑く喜び」が座右の銘。地域とともに笑く、自分が元気だったら、周りも元気になれるような生き方を目指す。

第2の人生を歩き始めた3人は「自分の心に問いかけ、気持ちに正直に行動すれば、道は開けてくる。とにかく挑戦することが大事」「定年を待たず次のステップに早く踏み込んだことで、これまでの職場の人間関係が生かせる」とこの1年半を振り返る。「とにかく10年間やりぬくことが目標。その後は、旅行三味もいいかも」と、3人は笑顔で語った。

01



比和やまびご祭り、比和特産市場のブースで餅をつくる由利榮さん。今年から、角雄さんは比和特産市場の会長を任せられ、調整役として動きまわる。

ファイルNo.2 農業を志す

おっばら
越原地域でこだわりの
野菜づくり

夫婦2人3脚で有機栽培に挑戦

杠 角雄さん・由利榮さん(比和町)



長谷川登江子さんの 出会い

平成16年の春。「私は勇気をだして辞めたので、これからは有機栽培をします。これが私の第2の人生です」と、比和町役場の歓送迎会で挨拶した杠由利榮さん。勤続35年を区切りに、53歳で早期退職した。

有機栽培を始めるきっかけとなったのは、地元にある民宿「柏和屋」へお客として年に数回訪れる長谷川登江子さんとの出会い。長谷川さんは、広島県農林振興センターのアドバイザーを務めるなど、こだわり農産物を京阪神のレストランなどへ紹介し、消費者と生産者の交流を図っている。イタリヤとこの地域の気候が似ていることから、「イタリヤ野菜を植えて、京阪神に出荷してみないか」と呼びかけた。

1年目は有機栽培の勉強に取り組みながら、試験的に販売。1年後、県職員の方・角雄さんも54歳で早期退職。夫婦で同じ道を志すことにした。30mのビニールハウス2棟に、イタリヤアントマト、ズッキーニ、ハーブ系の野菜などを栽培。レストラン指定の



ハーブ野菜のロケットを収穫する2人

堆肥を入れ、虫を見つけては捕ってビンにつめるなど、安心・安全な野菜づくりにこだわる。出荷先のレストランから「形や見た目はどうでもいい、おいしければいい」と言われている。

「農業は力仕事もあり、一人ではできない。作業の担当を決め、お互いに口を出さなないようにルールを決めている」と、夫婦で同じ道を歩むコツを話す。

上勝町の高齢者から 勇気をもろう

今年3月、杠さん夫婦ら6人は、以前から興味があった徳島県上勝町の佃いりどりを訪ねた。佃いりどりは、野山の花や枝葉を料理の「つまもの」として商品化し、地域の女性や高齢者を中心に生産

年間販売額は2億円を超え、全国各地から注目されている。実際に行ってみると、車1台がやっと通れる想像以上の山奥。段々畑にモミジなどを植え、90歳のおばあちゃんも脚立に登って枝葉を採っている。また、パソコンによる受注システムも使いこなす。町で寝たきりの高齢者は2人だけで、体が動く人はみんな働いているという。また、ほとんどが納税者で、中には年収が1,000万円を超える人もいると聞いた。高齢者の生き生きとした姿に「こんな山の中で、しかも、おばあちゃんがんばらばつてらんだから、私たちがはもつとがんばらなくちゃ」と、大きな勇気をもたらした。

神へ出荷したい。また、高齢者が作る野菜を少しでもお金に換えて、地域を元気にできれば。地域と一緒に何かしたいという思いが強い。夫婦で有機栽培に取り組

み2年。今はなかなか儲けにつながらないが、お客の喜ぶ顔が生きているという。「基本は他の人がしないことをする。目標は上勝町の高齢者」。夫婦2人3脚の挑戦は続く。

地域とともに歩みたい
5年前に、地域の資源を生かして都市との交流を図ろうと「越原みこと会」を立ち上げ、越原文化の伝承と吾妻山の自然観察など、県が主催する「やまなみ大学」の講座を開いている。尾道・三原などから参加者が多く、1年を通じて全行程に参加するリーダーもいる。会長を務める由利榮さんは「地域のまともを大切にしたい」と話し、暮らしを楽しみたい」と話し、地域とともに生きていきたいと願う。



越原みこと会の「野草もちつき・草木を食べる会」(やまなみ大学講座)



農林振興公社と漬物の商品化に取り組む

みんなので 儲ける農業へ

市では、農業者への支援として、施設整備に対する補助や農地の斡旋などを行っていますが、「販路や技術がないから始められない」などの理由から、退職後の職業として本格的に農業を選択する人は少数です。また、農業を始めても、市場への出荷は、一定の規格の生産物を揃えなければならぬため、高度な栽培技術の習得が課題となっています。

市では今年度、(株)庄原市農林振興公社を設立し、個々の農家で栽培された野菜などの産地直売や、農産物の販路拡大への取り組みなど、新たな農家支援を始めました。また、里山の山菜・山果及び間引き菜などの未利用野菜を商品化し、これまでお金にしていなかったモノで儲ける農業所得の向上を目指しています。

農業技術の習得については、今年度、市に営農指導員2人を設置し、栽培に関する基礎的な相談・指導を行っています。また、県立農業技術大学校でも、初心者向けの就農促

進講習会が開かれ、退職者や退職後に備え休暇を取って参加する方が増えています。「何をどのように栽培したらいいの?」どこに販売したらいいの?」など、営農指導員や農業に関する質問・相談は、庄原市農林振興課(☎0828-731132)または(株)庄原市農林振興公社(☎0824-7215090)へお気軽にお問い合わせください。

03



趣味が多くて困るという安部さんだが、最近クラシック音楽や歴史、美術など、これまで興味がなかったことにも関心がでてきた。「小さい頃、嫌いだった食べ物が、大人になって食べられるようになるのと一緒の感覚。発想を柔軟にし、物の見方を固定化せず、いろんなことに興味を持つことが人生を楽しくさせてくれる」と話す。

かけると、40人ぐらいが集まり、皆「懐かしい」と蓄音機の音色に酔いしれた。そのことがきっかけとなり、蓄音機の出前コンサートを始めた。次々と古い機器を再生する安部さんが地域で評判となり、テレビや新聞などでも取り上げられ、広島、福山、島根などから古い物を愛する人たちが訪れるようになった。また、SP・LPレコードやビデオテープ、映画フィルムなどのソフトウェアをはじめ、開発初期の録音機や真空管式ラジオ・真空管式白黒テレビなど、貴重な映像・音響機器の提供を受けるようになった。最近では、倉庫に眠っていたアーキタイプの劇場用映写機も修復し、昔懐かしい映画会上映も始めた。

「古い機器は今よりも性能は劣るが、非常に味があつて温かみがある。また、最新情報



「実際に機器が動かなければ実感がわかない。見て触れてはじめて新しい感動が生まれる。壊れたら、また直せばいい」と話す。

機器の原形で技術的にも価値があり、触って当時の原点を見てほしい」と、古い機器に触れることができる唯一の資料館を自負する。市外から10回以上足を運びリピーターや大型バスで高齢者が訪れるなど、古き良き時代を思い出し、懐かしい空間を楽しむ。最近では蓄音機の音色に感動し涙ぐむ高校生もいるなど、CD世代にも人気を広がりつつある。開

館日は週2日だが、問い合わせや古い機器の修復など、ほぼ毎日資料館の仕事に携わっている。「昔は物のしくみが分かる『ギカイ』がいっぱいあった。この資料館を利用して、理科離れの進む子どもたちへ物づくりの楽しさを知ってほしい」と次世代の育成にも意欲を燃やす。長年培った技術が、安部さんの活躍の場を広げている。



田舎暮らし体験ツアー

ような田舎暮らしをしたいなど、これまで15件の問い合わせがあります。少子高齢化が進む中、団塊世代だけでなく、若い世代のUターン、学生の地元就職なども積極的に推進していきます。

ファイルNo.3 技術を生かす



物づくりの楽しさ、古きよきものを次世代に伝える

古い機器を再生し、資料館へ展示

安部 博良さん・ミヨコさん(口和町)



口和町へUターン

旧庄原格致高等学校口和分校を改築した口和郷土資料館に、古い映像・音響機器などを再生する安部博良さん(64)がいる。

「どうですか?この蓄音機。実際に動くんですよ。古いSPレコードをかけると、耳に心地よい音色が響く。これが昭和30年代のテレビ。きちんと写るでしょう。これが真空管式ラジオで...」と、次々に古い機器を動かしながら説明する安部さん。まるで大正・昭和時代にタイムスリップした懐かしい空間が広がる。

口和町出身の安部さんは、元電子機器メーカーの技術者。中近東や東南アジアなど海外勤務も長く、自社製品のメンテナンスと地元技術者への指導を行ってきた。

60歳で定年を迎え、府中市の自宅で、趣味に没頭しようと考えていた安部さん。趣味は、アマチュア無線、車、バイクの整備、カメラ、ジャズ鑑賞、日曜大工など多彩。趣味が多すぎて、時間はいくらあっても足りないという。そんなある日、妻のミヨコさんが「口和で暮らそう」と言い出した。「お袋の面倒をよく見てもらい

ました」と、福祉村などの施設が充実した口和町へUターンを決めた。

府中市の自宅を処分し、口和町へUターンした平成15年の夏。当時の口和町教育委員会から口和郷土資料館の管理人を、と声がかかった。資料館の開館日は月・木曜日の週2回。たまに小学校が社会見学に訪れる程度で、施設の管理が主な仕事。「それまでは、郷土資料館の存在すら知りませんでした。面倒な仕事かなと思いましたが、せっかくな声をかけてもらったのだから」と引き受けた。

蓄音機の出前コンサート

資料館には、地域の方から提供された貴重な民具、生産用具をはじめ出土品などがたくさんあり、その量の多さに驚いたという。その中に、明治から大正にかけて製造された蓄音機と古いSPレコード10枚があった。この蓄音機を修復して、レコード鑑賞会をしようといらめいた。「古い機器は修理ができるように製造してある」という安部さんは、部品を一つひとつ外して磨き、不足する部品は手作りりで修復した。レコード鑑賞会の参加者を地域へ呼び



妻のミヨコさんも、床がピカピカになるほど掃除をしたり、花を生けたりして協力している。Uターンして4年目。ミヨコさんも趣味の「お茶」や「生け花」を通じて積極的に地域に溶け込み、里山の暮らしを楽しんでいる。「私たちのようにUターンであれば、地域にすぐ馴染める。しかし、Uターンなど、地域をよく知らない人は田舎の習慣にとまどう。だんだんと慣れていくと、それが良くなるが、最初は適度な距離感が必要」と安部さんは話す。

団塊世代の移住を狙う

豊富なキャリアやネットワークを持つ団塊世代の移住を狙って、各県が積極的な取り組みをしています。ある試算によると、団塊世代が移住したときの老人医療費や介護費用などの公的負担に対し、経済波及効果はそれを十分に上回る額と推測されています。そのため、全国的に団塊世代の獲得競争になってきています。

広島県は、全市町と不動産関係団体などで定住促進協議会を設置し、東京・大阪での田舎暮らしフェアを開催するほか、ポスターやパンフレットを作成。ホームページも現在作成中です。市では、Uターン者などで構成する庄原市定住施策研究会の開催や問い合わせ窓口の一本化、空家の情報収集と活用、定住推進員の設置、田舎暮らし体験ツアー、市出身の団塊世代へのアンケート調査などを商工観光課で行っています。庄原市は地震など自然災害が比較的少ない地域と言われ、テレビや雑誌でみる



農業を守ることは 地域を守ること 農事組合法人を設立

加藤政利さん(永末町)



地域を守るための選択

「いくら外で偉くなっても、地域へ帰つたらただの人。自分の最期は地域が看取ってくれる。地域に貢献し、自らの足跡を残したい。若い時から、ずっとそう思ってきた」

庄原市永末の加藤政利さん(63)は、広島県経済農業協同組合連合会(現在の全国農業組合連合会広島県本部)に30年間勤め、県内の農村を歩き、営農指導を行ってきた。56歳で退職後、JA機械広島サービスという新会社の経営に携わり、昨年の春に退職した。

長年、県内の農村を見てきた経験から、個人での農業に限界を感じていた。「このままいけば、地域の農業は危うい。地域の農業を守ること、これは地域を守ること、に直結する。なんとかしなければ」。永末営農集団の組合長をこれまで12年務めていた加藤さんは、営農集団を発展的に解消し、効率的な経営が可能な法人化を目指すことにした。

昭和52年に、ほ場整備とともに34戸で設立した営農集団。その中に、法人設立研究会を立ち上げ、法人化のメリット

を学び、先進地視察などを行った。永末地区は第2種兼業農家が多く、生活が農業収入に依存していないため、「今のままでいい」「今さらリスクを負いたくない」という声が多かった。

その中で、加藤さんらは「個人で米づくりをしても儲けがない。このままいけば、農地が荒れ、地域の衰退につながる。これらの農業は生産から販売まで一貫して行い、消費者が好むものを作り、付加価値をつけて売る。また、加工品にすれば、原料の3倍の値段で売ることができ、雇用の確保にもつながる」と説得を続けた。

ついに、営農集団の7割が賛成し、損益分岐点としていた20haの農地が確保できた。もともと個々に事情があるため、地域全員が賛成するのは難しいと読んでいた加藤さんは、7割に達したら法人化しようと決めていた。

「夢ファーム永末」を設立

昨年11月、農事組合法人「夢ファーム永末」を設立した。農業機械やライスセンター、加工施設など、投資額は約8,000万円。そのうち、約1,000万円は市の地域ビジ



左は加工施設「夢工房」
右は大型の乾燥機が並ぶライスセンター



いも掘り体験イベントで消費者との交流を図る

ネス起業チャレンジ補助金の交付を受けた。この投資額も各農家で割るとそんなに大きなリスクではない、むしろ個人で農業機械を購入する方が、リスクが高いという。設立から1年。安心・安全なこだわり米「夢のひかり」を定温で保管して、年間を通して産直販売している。農作業の受託のほか、自分たちが栽培した米・大豆・麦を加工した餅・豆腐・味噌の販売やブルーベリーなどの農産物を栽培する。また、季節ごとに農業体験イベントを開催し、消費者交流を通してファンづくりを行っている。

加藤さんは、この1年ほとんど休みなく毎日朝から晩まで働いている。「とにかく軌道に乗せること。これしか頭にならない。他の地域のモデルとなるよう、がんばりたい」と一生懸命。毎月の役員によ



大豆の収穫作業



こしひかり100%の「夢のひかり」

る経営会議は、データを示して納得してもらおう。かつての新会社立ち上げの経験が活かされている。

「私たち60歳代以上の者が地域をしっかりと守れば、サラリーマンは仕事に専念でき、土日は家族サービスもできる。ただし、地域の行事にはみんな参加してほしい」と呼びかける。兼業農家の大変さを経験してきた言葉だ。今後、生産コストを下げる

ため、経営規模を拡大していくという。「地域に住む団塊の世代が退職後に参加してくれば」。軌道に乗るまで、加藤さんの忙しい日々は続きそうだ。

自らの地域は自ら創る

市では、「自らの地域は、自ら創る」という理念のもと、自治振興区による地域づくりが行われています。その中には、自分たちの住んでいる地域をよりよくしていきたいの思いから退職を機に多くの方が、自治振興区の役員として活動の中心となって汗を流しています。

自治振興区活動には、これまでの生活環境整備などに加え、産業振興など地域の利益向上を図る「ミニユニティビジネス」も増えており、これまで企業で培った多様な経験が活かされています。

各地域には、様々な課題があり、また住民の皆さんが思い描く将来像があります。市では、地域の夢の実現や課題解決のために、自治振興区実践リレー講座などの研修会や各種補助金を用意し、地域住民の皆さんが実施される活動を支援しています。地域づくりのお問い合わせは、自治振興課(80824-7311209)または各支所地域振興課まで。

補助金事例

自治振興区活動促進補助金

自治振興区が、地域課題の解決や活性化を目指し、主体的に取り組む活動に対して補助金を交付します。平成18年度は、25自治振興区、28事業に24,729,000円を交付決定。

補助率：対象事業費の4/5
補助限度額：1事業につき300万円

自治振興区振興交付金

活力ある地域づくりを自主的、総合的に推進する自治振興区に対し、自治振興区の運営と活動を支援する交付金を予算の範囲内で交付します。平成18年度は、88自治振興区に総額約1億2千万円を交付決定。

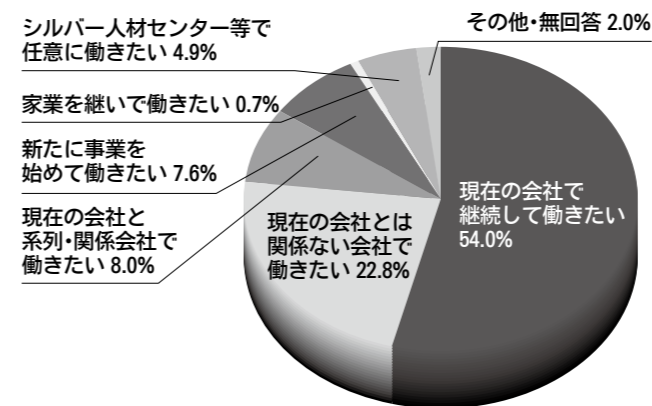
高齢者の働き方

少子高齢化の急速な進行により、今後、労働力人口の減少が見込まれる中で、高齢者が長年培った知識と経験を生かし、地域の支え手として意欲と能力のある限り活躍し続ける社会が求められます。高齢者の働き方について、ハローワークとシルバー人材センターにお話を伺いました。

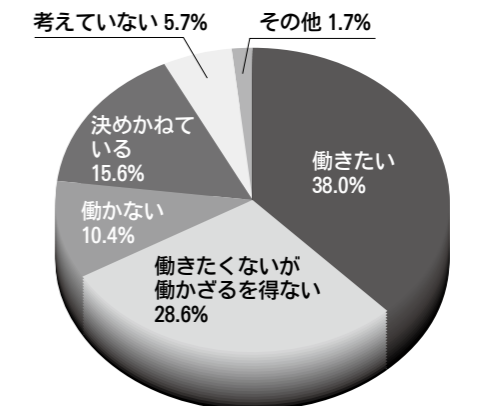
「団塊世代の仕事と生活に関する意識調査」(提供:高齢・障害者雇用支援機構)

- 調査の概要**
- ①調査対象 昭和22年から昭和24年生まれの男女で何らかの形態で企業などに雇用(農林水産、公務を除く)されている人。ただし、民間調査機関にモニター登録している全国の約2100人。
 - ②実施時期 平成18年3月15日～3月28日
 - ③調査方法 インターネットによるアンケート調査
 - ④回収数 2,043人(男性1810人、女性233人)

希望する定年後の働き方(単位:%)



定年後の就労意識(単位:%)



平成16年6月、高齢者が少なくとも年金支給開始年齢までは働き続けることができるよう、高齢者雇用安定法が改正されました。これにより、平成18年4月1日から、65歳未満の定年を定めている事業主は、高齢者の安定した雇用を確保するため、定年の引き上げ、継続雇用制度の導入、定年制度の廃止のいずれかの措置を講じなければいけません。

6月に市内の65社に確認したところ、約8割の事業所がすでに導入済み、または導入に向け取り組まれていました。導入済みであっても、明文化しないと意味がないので、引き続き啓発をしていきます。

庄原ハローワーク管内の9月の求人状況を見ると、55歳以上の月間求職者数208人のうち、常用の就職件数は9人と、高齢者の再就職は厳しい状況が続いています。最近では、全般的に誰にでもできるという単純作業の求人が少なく、年齢が高

い人ほど経験を要求されます。資格や経験があれば再就職の可能性も高まるため、職業訓練校などで資格を取る人も増えてきています。

ハローワークや広島県雇用開発協会では、高齢者を積極的に雇用する事業主を支援するため、各種助成金の支給を行っています。さらに、広島高齢期雇用就業支援コーナーでは、中高年を対象に、高齢期の職業生活設計に必要な助言や各種の援助を行っています。お気軽にご相談ください。

高齢者雇用確保措置実施義務化年齢引き上げスケジュール

- 平成18年4月1日～平成19年3月31日:62歳
- 平成19年4月1日～平成22年3月31日:63歳
- 平成22年4月1日～平成25年3月31日:64歳
- 平成25年4月1日以降:65歳

広島県雇用開発協会ホームページ
<http://www.urban.ne.jp/home/koyok34/>
 広島高齢期雇用就業支援コーナーホームページ
<http://www.hiroshimakoureiki.go.jp/>
問い合わせ ハローワーク庄原 ☎0824-72-1197

ハローワーク庄原
統括職業指導官
田根 忠雄さん



(社)庄原市シルバー人材センター
理事長 伊藤 昇さん

高齢者の雇用の受け皿に

シルバー人材センターは、高齢者がこれまでの経験と能力を生かし、働くことを通じて社会に参加し、喜びと生きがいの実を齎ることを目的としています。

年会費2,300円を支払って会員登録し、会員が働いた仕事量に応じて「配分金」を支払うシステムです。就業や収入の保障はありませんが、各人の希望と能力に応じた働き方ができます。

現在、庄原市シルバー人材センターには、56歳から96歳までの513人が登録されていますが、定額が保障できないこともあり、年金が支給されている65歳から75歳の年代が中心となって働かれています。

仕事の依頼は公共事業が約半分を占め、次に民間企業、家庭から受託しています。昨年

度の実績は、受注件数が3,213件、就業延べ人数が33,038人、契約金額が約1億9,161万円です。

仕事は、草刈り、草取り、庭木の剪定など屋外の作業が大半を占めています。今後、団塊世代の多様な人材に登録していただくことにより、受託の職種が広がります。また、会員の知識・技能を高めるため、各種の講習を実施していますので、未経験者でも安心です。

会員の皆さんはいくつになっても働くことで、元気で生き生きとされています。毎月20日、会員の入会説明会を行っています。お気軽にお越しください。

問い合わせ
 (社)庄原市シルバー人材センター
 ☎0824-72-1135

市内の印刷会社を62歳で退職。1年間自宅の整理や農業に従事しながら、気が向けば動き、ちよつと仕事をしたい。冷蔵庫を開けるといふ不規則な生活をなんとかしなければと思っていました。そんな時、シルバー人材センターの会員に誘われ、自分の経験を生かし、少しでもお金を稼げればと会員登録しました。

入会后、同じ会社を退職された先輩が会員でおられ、「一緒に草刈りをしてみないか」と言われたものの、希望職種と違うし、家では1日2〜3時間しかやることがないと話したら、「まあ一日来てみたら」と誘われて、現在まで6年間続いています。

真夏の草刈りは正直言って重労働ですが、依頼主から「何日まで刈らないといけないが、息子は帰らないか」というし、どうしようかと思っていた。早く来てくださって本当にありがとう」と、目を潤ませながらお礼を言われると、疲れも吹っ飛び、この仕事をしてみたい。また、多くの仲間ができて、休憩時間の世間話や親睦旅行も楽しみの一つです。

収入を得ることで、好きな映画を観ることができ、近所に住む孫に教育資金の一部を出して喜ばせてやりたいと思います。

働ける人は、シルバー人材センターへどんどん入



草刈りをする 加東さん



会員・理事 加東 一義さん

仲間に支えられ 和気あいあい

会し、自分に合った仕事をして、働きがいや生きがいを見て、高齢者は忙しいという社会を願っています。

自分づくりと 地域デビューを 応援

Senior Volunteer



県内5つの社会福祉協議会でされたシニアボランティア研修。庄原市社会福祉協議会では、気軽に参加してほしいとの思いから、「赤ちょうちん広場」と名付けた。参加者はノンアルコールビールなどを飲みながら、楽しく夢を語った。

赤ちょうちん広場

シニア世代が地域で自分なりの暮らしがいを見つけられるよう、庄原市社会福祉協議会が、今年8月末から9月にかけて、50歳以上の方を対象に、自分発見と地域デビューを応援する「赤ちょうちん広場(シニアボランティア研修)」を開催しました。主催した庄原市社会福祉協議会にお話を伺いました。



庄原市社会福祉協議会
鹿川晴美さん

もっともっと輝いて!

団塊世代の人々が地域づくり・まちづくりに参画することを期待する声が高まっています。しかし、これまで企業一筋で人生の大半を過ごしてきた人々が、定年退職後すぐに地域になじんだり、地域活動に参画したりするというのが期待には、かなりのギャップが感じられます。このギャップを埋める作業として、今回「赤ちょうちん広場」を開催しました。

これは、団塊世代を中心としたシニア世代の人々が、これまで培った知識、技術などを生かした「マイプラン」の作成にチャレンジすることで、自分を振り返り、自分と地域をつなぐきっかけづくりがねらいです。

この「赤ちょうちん広場」は、市内5カ所で開催し、延べ80人が参加。4人から6人のグループに分かれ、自分らしい輝き方や元気な地域づくりなどについて、自らの考えを話したり、他の

参加者の意見を聞いたりしながら進めるワークショップを行いました。「自分の元気につながる」「地域の元気につながる」「次の世代を育てる」という視点で、それぞれ「マイプラン」を作成。子育ての楽しさを伝えたい、伝統芸能を継承したいなど、これからの活動に夢を膨らませました。

最初は、この企画が団塊の世代に受け入れられるのか不安もありましたが、参加者から「これからの自分を考えるきっかけになった」「人から頼りにされるような活動がしたい」「これまで仕事・仕事で地域に目が向かなかったけど、これからはいろんな活動に参加したい」などの声が聞かれ、楽しく研修ができました。

今回はプランを完成することも大切でしたが、研修の過程で他の仲間と様々な意見情報を交換することで、これからの人生設計の役に立てばと思っています。今後、作成された「マイプラン」が地域の中で活発に進められるように、社会福祉協議会も皆さんと一緒に取り組んでいきます。

問い合わせ 庄原市社会福祉協議会 ☎0824-72-7120

マイプランを作ってみよう!

自分自身が今まで元気にこられたのは何が良かったのか振り返り、その元気の素を大切にしながら、今後やってみたいことを探し出します。最後にそのやってみたいことをどのように実現するかを考え、「マイプラン」を作成していきます。自分の良さを生かしながら地域に貢献できるプランを作りましょう。

あなたはどんな
事をしたい?

マイプラン作成に向けて

- 1 地域の良い所・気になる所は?
(気になる所は自分たちで改善できるもの。)
- 2 次世代に伝えたい・残したいものは?
(高年齢者が伝えないと消えてしまうこと。次世代が知りたいと思うこと。)
- 3 ①・②を踏まえて、やりたいこと・できること探し
(自分自身が元気になる。やって楽しめること。)
- 4 活動テーマ「あなたが取り組んでみたい活動」
- 5 マイプランづくり(自分も輝き、地域も元気に!)

「マイプラン」作成の視点

- 1 自分自身が元気になる
「マイプラン」の実践が自分自身の元気の源を膨らまし、これからのシニアライフをますます元気に過ごすことができる可能性を感じる。
- 2 地域が元気になる
自分自身の元気を膨らませながら、その実践を通して、自分が持っている知恵や技術が地域を元気にする可能性があること。
- 3 次の世代を育てる
団塊世代が有している知識・知恵・技術などは、その先輩から受け継いできたものであり、「次の世代を育てる」ことがこの世代の大きな役割であることを認識すること。

第2の人生を生き生きと 過ごすために

エピローグ [epilogue]



余暇開発士
波多野俊明さん

50歳代からは 複線に切り替えよう

「家庭を顧みずに一生懸命に働いてきた」など、わき目も振らず仕事一本槍の単線で生きてきた人は多い。しかし、50歳代になると、仕事一筋の軸足を8割から9割にして、複線(2本のレール)に切り替えるほうがよい。これは、仕事に対して手を抜きなさいと言っているのではなく、仕事帰りや休日に職場の仲間と過ごしてきた時間を、地域や隣近所とふれあうことにする。そのことが、職場以外の自分を発見できるチャンスとなる。

これまで、「部長さん」「課長さん」と呼ばれてきた人も、退職後は肩書きが取れ、ただの「おじさん」「おばさん」になる。地域で職場時代の武勇伝を言えば言うほどその人の価値は下がり、地域では相手にされなくなる。よくある事例として、地域に出て何を話していいかわからない、話しが合わないから家に引きこもる。そして、一日中テレビの前に座って、昼間からアルコールを口にする。退職後

のアルコール中毒が増加しているのが現実。仕事の話だけする人はつまらない、早めに複線に切り替えることで、仕事以外の人間の魅力が増してくる。地域へ出るきつかけがない人は、妻や孫、ベットのネットワークなど、何かの縁を使って地域へ入る。

「本当の自分が したいこと」 自分と向き合おう

第2の人生を生き生きと暮らしている人とそうでない人の違いはアイデンティティ(本今の自分がしたいこと)が定まっているかどうかにある。

60歳以降、自分は何がしたいかライフプランを描いている人は少ない。断片的に旅行や釣りがしたいということはあるが、それだけでは時間がつぶれない。退職前は毎日やるのが決まっていた。退職後は自分でやることを決めていかなければいけない。「自分は地域の子どもの守りたい」「地域の農業を守りたい」「社会に貢献したい」。これが自分の人生なんだと

いうベクトル(方向)をしつかり定め、一つの大きな目標を持って日々を過ごすことが大事。これを退職前に考えることに価値がある。

昔は人生50年、60歳以降は余生と言っていたが、現在は70歳でも若い。80歳・90歳になっても、やることはいくらかもある。自分に何ができるか、何がしたいか、いくつになっても自分と向き合うことが大切。

自営業者や専業主婦 もアイデンティティ を考えよう

サラリーマンは、農業や商売をしている自営業者を定年がなくなつたらやましいと感じる人が多いが、逆に自営業者はサラリーマンを定年があつたらやましいと感じている。

私は自営業者も、50歳代でアイデンティティを考えてみる必要があると思う。年を取るにつれ、確実に体力が衰えていく。今までできていたことができなくなる。しかし、10年後の自分を想像した時に、体力の衰えは想像できるが、

50歳代から60歳代に移住して20年後、団塊世代が老人になり、団塊シニアの世代が退職を迎えるとき、これから社会が若返る可能性はない。その中で、団塊世代のUターン・リターンは若者が帰るという感覚。中には、都会で税金を落とし、医療費負担が増える頃田舎に帰ると財政的にマイナスに見える人もいるが、様々なキャリアを積んでいる団塊世代が移住してくることは、確実に地域が活性化される。喜んで迎えてほしい。

ライフワークを 見つけよう

生涯現役とは有償・無償関係なく仕事をすること。ライフワークとは、何かの仕事に携わること。余暇がいかに楽しいかどうかが、仕事とどう向き合おうかに関係してくる。海が好きだからと言って平日海について、休日に海に行っても、それは余暇にならない。仕事のあり方が余暇を楽しくしてくれるのであつて、余暇ばかりでは決して楽しくない。

余暇にも利己的余暇と利他的余暇がある。利己的余暇

取材を終えて

今回紹介した方以外にも、市内にはボランティア活動や趣味を含めた生涯学習など、様々な分野で生きがいを見つけ活躍されている方が多くいます。この取材を通して、夢に向かって頑張っている人に、年齢は関係ないといづく感じました。また、いくつになつても、この人たちのように元気で充実した人生を歩みたと思えました。

年齢を重ねていけば、皆いつか第2の人生を迎えます。これまでの自分を振り返り、どう生きるかは、どの世代においても共通する課題です。退職した方が、これまで培った多様な能力や経験を生かし、地域社会で活躍できる「生涯現役社会」が求められています。その構築に向け、一人ひとりが考えなければなりません。

波多野さんのライフプラン講座で「今年、100歳以上の人口は全国で2万5千人を超え、昨年に比べ約2,000人も増えました。100歳も

とは、何か趣味を持つて自分で楽しむ。例えば写真が趣味であれば、だんだんと技術を高めコンテストに出品して他人に評価してもらおう。それに對して利他的余暇は趣味で自分が学んだことを人に教える、学んだことを地域に広めることをいう。地域の文化力とは、住民一人ひとりが地域の先生になること。利他的余暇の推進が、庄原市の文化力・地域力をアップさせることになる。

地域に出て、いろんな役を引き受けることを嫌がる人がいるが、役を引き受けることが、地域デビューの最短距離。その人の人柄やキャリアを評価してもらい、地域の中で活躍する場を与えてもらえることは喜ばないといけない。高齢者が喜びを感じるのは、満足感と達成感を得たとき。役を引き受ける苦労もあるが、喜びを味わうチャンスが多くなるかにメリットが大きい。

第2の人生は、自分の夢をかなえる最後のチャンス。本当に楽しいと思えるものにしてほしい。

夢ではない時代となった今日、60代・70代はまだ若いと言えます。年齢を重ねるにつれ「もう歳だから……」と年齢を理由に、自分の可能性に制限をかけてしまいがちですが、これからは「もう」ではなく「まだまだ」と、いくつになつても心年齢を若く保ちましょう」と話されたことが印象に残りました。大切なのは、年齢ではなく、自分は何がしたいか、どう輝くかという思い。新しいことにチャレンジする勇氣を持ち続けることです。

最近、少子高齢化や過疎化、財政難……と将来への不安要素がマスコミに取り上げられていますが、一人ひとりが夢に向かって、充実した時間を過ごす、そんな「人生の楽園」をみんなで作れば、庄原市の将来は輝かしいものになります。

この特集が、新たな一歩を踏み出す契機になればと願います。
ご意見・ご感想、また情報をお寄せください。

「げんき」と「やすらぎ」のさとやま文化都市の実現に向けて

庄原市長長期総合計画について答申

企画課企画調整係
☎0824-73-1128

市は、各団体の代表者や学識経験者、市民など、合計25人で構成する長期総合計画審議会(会長・野原建一 県立広島大学教授)を設置し、本市まちづくりの最上位計画となる長期総合計画に関する審議を行いました。



野原会長から滝口市長に答申書を提出

■第4回審議会(10月17日)

「基本構想の修正(案)」と専門部会*でまとめた「基本計画*(案)」について、事務局から説明しました。

委員からは、「市税収納率の向上を望む」「農林業振興に向けた、積極的な施策推進を要望する」「ゴミ分別の細分化をはじめ、リサイクル率の向上に努めてほしい」などの意見が出されました。

■第5回審議会(11月20日)

前回の審議会や各地区地域審議会での意見・提案について、事務局から回答及び対応案を説明しました。

委員からは、「若い世代が住みやすい環境づくりをはじめ、定住対策の推進を望む」「財政状況が厳しい中ではあるが、市民生活の向上策を速やかに実施していただきたい」などの意見が出されました。

■答申(11月20日)

これまでの審議会に取りまとめられた基本構想・基本計画の最終案が、野原会長から滝口市長へ「庄原市長

長期総合計画に関する答申書」とともに提出されました。

野原会長は答申にあたって、「長期総合計画の趣旨と内容を広く市民の皆さんにお知らせし、理解と協力のもと、将来像である『げんき』と『やすらぎ』のさとやま文化都市の実現に取り組まれることを期待します」との総括意見を付されました。

滝口市長は、「審議会委員の長期間にわたる熱心な議論にお礼を申し上げます。市民の皆さんと力を合わせ、計画的なまちづくりを推進します」と感謝と決意を述べました。

*専門部会は、審議会委員が分野別に集中審議を行う組織で、総務地域振興・環境建設・教育民生の3つの部会で構成。
*基本計画は、基本構想で示す「将来像」を実現するための5つの政策と重点戦略プロジェクトについて、それぞれの現状と課題を明らかにし、具体的な施策を示すもの。また、基本計画の中では、具体的な10年後の目標値を設定。

基本計画(案)で示す主な目標指標

指標項目	単 位	現状(H17)	目標(H27)	備 考
総人口	人	43,149	43,000	現状維持
総職員数(西市民病院の技師職63人(平成17年4月1日現在)を除く。)	人	667	598以下(H23)	定員適正化計画
市税の収納率(現年分) (市民税、固定資産税、軽自動車税、たばこ税、鉱産税、入湯税の合計)	%	97.5	98.0以上 (H18以降)	収納額/調定額
入込み観光客数(年間)	万人	220	300	現状値の35%増
農家1戸当りの生産農業所得額(年間)	千円	754(H16)	830	生産農業所得額/総農家数 現状値の10%増
リサイクル率(全体)	%	36.0	44.0	資源化量/ごみ処理量 現状値の10%増
元気な高齢者の割合	%	76.7	79.0	介護認定を受けていない老年人口 /老年人口 現状値の3%増
医師1人当たりの人口	人	532(H16)	500	総人口/医師数(歯科医師を除く)
児童生徒の基礎学力調査の※通過率 ※通過率とは、正答者数を調査対象者数で割った百分率のこと。	%	小学校 国語 81.2 算数 86.9 中学校 国語 72.1 数学 69.5 英語 74.0	85.0 88.0 80.0 80.0 80.0	広島県「基礎・基本」定着状況調査

長期総合計画は、今後、議会議決を経て完成となります。

審議経過・会議資料については、市ホームページに掲載しています。

平成18年度第2回地域審議会 長期総合計画と 実施計画の変更を審議

企画課企画調整係 ☎0824-73-1128

平成18年度第2回の地域審議会が10月下旬から11月上旬にかけて市内7地区で開催されました。

審議会では、平成17年度の事業実績について報告するとともに、長期総合計画の基本構想(案)・基本計画(案)と平成17年度から5年間の具体的な事務事業をまとめた第1次実施計画の平成18年度変更計画(案)を諮問し、審議が行われました。



東城地区

長期総合計画

長期総合計画基本構想・基本計画に関しては、下記の意見が付され、「適当と認める」旨の答申が出されました。

基本構想(案)・基本計画(案)に対する主な意見

- 自治振興区(協働の視点)に関する項目を積極的に盛り込まれたい。
- 農業自立振興プロジェクトの充実と具体的な取り組みを強く望む。
- 観光交流の振興が期待されているが、この地域の食文化の利活用についても記述が必要である。
- 「担い手の確保・育成」の項目は最重要課題であり、特記されたい。

実施計画

実施計画は、新庁舎建設などの全域事業と、旧市町において、重要・緊急案件としていた道路整備などの地域事業を整理したもので、変更後の総事業費は約227億円(一般会計・普通建設事業)となっています。厳しい財政状況により起債発行額を抑制するなどの見直しを行いました。

実施計画の主な変更事業

①新規事業

- 地域内除雪機械整備事業(全域)
=18~19年度で各自治振興区へ除雪機械を整備。
総事業費:1億500万円

②延期事業

- 総合福祉保健センター整備事業(庄原)
=18年度で整備を計画計上していましたが22年度以降に延期。
総事業費:10億8,500万円
- 里山総合整備事業(総領)
=19~21年度で灰塚ダムの周辺に温泉宿泊施設・農家

レストラン・散策道などの整備を計画計上していましたが、収支計画など、詳細な事業の検討が必要なため22年度以降に延期。
総事業費:5億5,200万円

変更計画に関しては、総領地区を除く6地区から、「適当と認める」旨の答申が出されましたが、総領地区では、「他地域との均衡が図られていない」などの理由により「認めがたい」との答申となっています。

今回の答申・意見なども踏まえて、毎年度、必要性・緊急性などの事業評価と全体的な視点をもって見直しを行います。

実施計画の変更に対する主な意見

- 厳しい財政状況ではあるが、掲載された事業については、計画どおり確実に執行していただきたい。
- 平成22年度以降に延期された総合福祉保健センター整備事業(庄原)については、できるだけ早期に実施計画への計上を検討すること。

- 全域事業、地域事業とも経済的効果を生み出す施策が展開されていない。地域を創っていくための事業を議論のうえ厳選する必要がある。

- 総領の地域事業については、変更後の額と当初計画額との比率が、他地域に比べて突出して低くなっている。他地域との均衡が取れた数値とされるよう強く要望する。

年度別事業費総括表(変更後の実施計画) 一般会計・普通建設事業

(単位:千円)

地域名	17年度実績	18年度計画	19年度計画	20年度計画	21年度計画	5年合計	当初計画合計	当初計画比較	比率(%)	
全域事業	537,884	1,383,815	1,988,673	2,998,152	956,684	7,865,208	7,331,843	533,365	107.27	
地域事業	庄原	1,485,388	1,644,874	705,092	575,490	627,381	5,038,225	5,984,567	△946,342	84.19
	西城	345,849	441,258	468,612	195,996	196,766	1,648,481	1,955,924	△307,443	84.28
	東城	788,404	342,835	249,983	475,694	409,795	2,266,711	2,379,325	△112,614	95.27
	口和	360,790	322,197	350,484	374,119	359,035	1,766,625	1,976,962	△210,337	89.36
	高野	345,531	257,331	339,584	301,050	293,635	1,537,131	1,760,962	△223,831	87.29
	比和	536,608	384,236	261,801	211,192	201,192	1,595,029	1,755,435	△160,406	90.86
	総領	258,100	247,030	156,200	166,000	159,000	986,330	1,580,591	△594,261	62.40
合計	4,658,554	5,023,576	4,520,429	5,297,693	3,203,488	22,703,740	24,725,609	△2,021,869	91.82	

* 会議資料・審議経過につきましては、市ホームページへ掲載しています。

守ろう!活かそう!
ふるさとの自然

間伐材や庭木などの収集に 参加してみませんか

—木材収集システムの実験を実施します—

豊 かな森に囲まれた庄原市。しかし、人の手が入らなくなった森は荒廃が進み、人と自然が共生してきた「さとやま」の環境は失われつつあります。市では、森林資源を有効活用し、森林・里山再生や地域産業の創出につなげる手法を検証するため、木材収集システムの実証実験を行います。

裏 山の間伐や庭木の手入れなど、皆さんの周りが出た木材をお持ちください。その木材は買い取った後、ペレットストーブの燃料であるペレットの原料として活用します。皆さんの作業で森や里山がよみがえり、持ち寄られた木材は新たなエネルギーとして活用されます。多くのご参加をお待ちしています!



森の手入れなどで出た木材をお持ちください!

■木材の受け入れ期間・時間

受入期間 2月28日(水)まで

受入時間 月曜日～金曜日

(年末年始、祝日を除きます)

9時～17時

※軽トラックなどで搬入された木材は、
トラックスケールで計量します。

■対象となる木材

樹種

樹種は問いませんが、庄原市内の山林での間伐や庭木の手入れで出た木材を対象とします。

木材の大きさ

丸太の場合は、最大直径が40cm以下、長さが1m以上3m以下です。

枝などの小さなもの

手で持てるように束にしてください。

受け入れられないもの

建築廃材などの廃棄物や塗装・接着剤・くぎなどの不純物が少しでも含まれているものは、受け取ることができません。

また、素材生産専門業者の方はご遠慮ください。

■主催・問い合わせ 庄原市・庄原市SARUプロジェクト会議 (事務局)庄原市役所企画課内☎0824-73-1114

※庄原市SARU(Satoyama Runaissance unit:さる)プロジェクト会議は、庄原市内の森林資源をバイオマスエネルギーなどに有効活用し、新しい地域産業の創出と、美しい里山景観を保全するための事業を実施・推進します。

■お金やペレットとの交換

持込み木材1kg当り2.5円(2,500円/トン)を支払います。木材代は、それに相当するペレット燃料と交換することもできます。

■木材の受け入れ場所

笠原産業株式会社 庄原市中本町二丁目11-25

☎0824-72-1155

※2トン車以上のトラックで大量に木材を搬入しようとする方は、お手数ですが事前に笠原産業へご連絡ください。



収集した木材はペレットストーブの燃料として利用します。



除雪作業にご理解とご協力を

承ください。
●道路そばの樹木の枝が積雪でたわみ、通行に支障をきたす場合は、樹木の所有者が撤去するなどの対応をお願いします。なお、特に危険な場合には、伐採させていただきます。

問い合わせ

国道・県道の除雪

広島県備北地域事務所建設局 庄原支局維持課
☎0824-72-2015

市道・歩道の除雪

(内線4122)
建設課土木係
☎0824-73-1152

西城支所環境建設課
☎0824-82-2182

東城支所建設課
☎08477-2-5141

口和支所環境建設課
☎0824-87-2113

高野支所環境建設課
☎0824-86-2113

比和支所環境建設課
☎0824-85-3003

総領支所環境建設課
☎0824-88-3065

除雪することはできません。市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

除雪作業を効率よく行うために

●車道・歩道上に除雪作業の障害となるものは置かないでください。

●家や駐車場の出入り口は注意して除雪していますが、場合により雪でふさいでしまっていることがあります。ご了承

県や市では、積雪時の通行確保のため、少しでも早く除雪するように努めています。また、市では昨年度の豪雪を踏まえ、積雪量の多い地域の路線に大型除雪ロータリー車(2台)を新たに配備し、除雪作業の早期効率化に取り組んでいます。除雪作業は、積雪量や障害物などにより、作業時間を要する場合があります。また、市では全ての市道を



「備北商工会」発足に向け、調印式

11月9日、ウイル西城で、「庄原市5町商工会合併契約書調印式」が行われました。市内の西城、比和高野、口和総領の5商工会の合併により、平成19年4月1日、「備北商工会」が発足します。

月、東城町商工会が単独運営を決定したため、5商工会での合併となりました。

本所は現在の西城町商工会に置き、他の4商工会を支所とすることを決定。合併協議会の石川芳秀会長が「過疎、高齢化が進む中、弱小商工会が一つになることで相乗効果を発揮し、地域の商工業の発展に寄与したい」とあいさつし、滝口市長、加島英俊県

商工会連合会会長の立会のもと、各商工会長が契約書に調印しました。

市町村合併に伴い行政区画が拡大し、地域間格差などの課題や、きめ細かなサービスの提供をはじめ、商工会事業に様々な影響が予測されることから、平成17年6月、6商工会での合併協議が始まりました。しかし、今年1

調印しました。

市の台所事情

財政課財政係
☎0824-73-1129

持続可能な財政運営プランを策定



貯金も底をついてきた

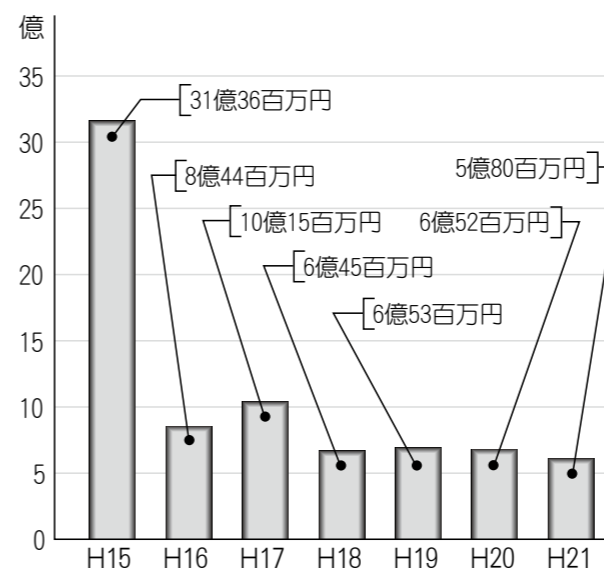
地方交付税などの削減や市民税などの税収入の減少により、財源が不足するという非常に厳しい状況の中、少子高齢化への対応や地域経済の活性化など、新たなまちづくりを推進し、諸課題の克服に取り組んでまいりました。

また、公共施設の維持管理、上下水道やごみ・し尿処理などの生活に欠かすことのできない事業を行い、その経費に市の実質負担となる

一般財源を充ててきました。その結果、一般財源が不足しています。

そこで、基金(貯金)を取り崩しながら、地域経済の回復を待ち、歩み続けてきました。地域経済はなかなか好転せず、平成15年度に31.4億円あった基金も、平成18年度では6.5億円と底をつきかけており、現状のまま財政を維持して行くことが困難になってきました。

財政調整基金(貯金)残高の推移



※平成18年度以降は見込額

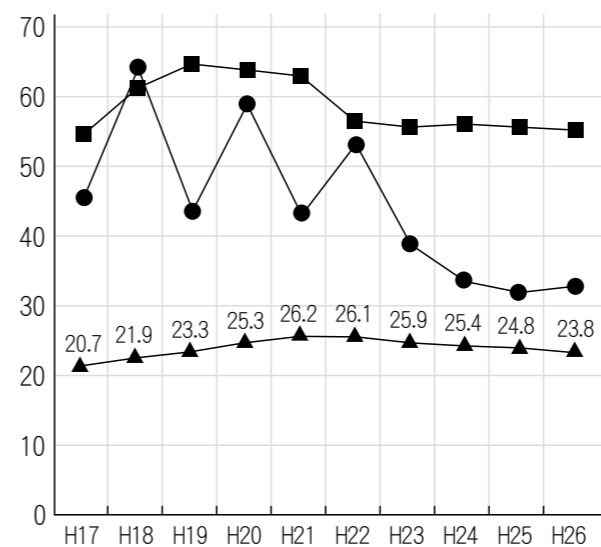
このままでは多額の累積赤字

借金返済額が歳出に占める実質的な割合を示し、財政の指標となる実質公債費比率は、平成21年度の26.2%(25.0%以上になると、一部の借金が制限されます。)をピークに、なだらかに減少していきま。今後は、借入額が、返済額を上回らないよう借金が増えないよう、財政運営を行っていきます。借金の返済期間が長く、すでに借入れている返済がなかなか終わらないため、厳しい状況は続きます。

今後の財政運営の目安として、全く収入の増収努力や支出の削減

減を行わないと仮定し試算すると、表①のような推計となります。この結果、市税や地方交付税など収入の減少、今後の高齢化社会の進行に伴う社会保障費の増大などにより、一層厳しい財政見通しとなります。赤字額は、平成20年度に16.2億円をピークに達し、平成21年度以降は、公債費(借金の返済額)の減少などにより減少傾向となりますが、このままでは、慢性的な赤字経営が続き、累積赤字が多額となり、財政破綻となりかねません。

借金の借入額と返済額の推移と実質公債費比率



● 借入額(億円)
■ 返済額(億円)
▲ 実質公債費比率(%)

平成23年度に黒字見込み

庄原市では、財政破綻を回避し、限られた予算のなかで安定的なサービスが行えるよう、「持続可能な財政運営プラン」を策定しました。このプランでは、歳入確保による効果額、歳出削減による効果額を具体的にまとめ、平成19年度は、収入の確保05億円(市税収納率の向上、公共料金の見直しなど)や経費の削減10.6億円(施設管理経費の削減など)3.7億円、補助金の見直し1.6億円や人件費削減4.3億円など)を行います。また、平成19年度以降も、これらの取り組みを継続していきます。

表① プランによる効果額を反映させた財政推計(見通し) 単位は億円で、▲は赤字

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
単年度収支	▲14.8	▲16.2	▲12.6	▲13.0	▲9.5	▲8.6	▲6.0	▲0.3	▲0.8
プランによる歳入確保 歳出削減効果額	11.1	11.2	11.8	9.9	9.9	9.8	8.0	8.0	8.0
差引額	▲3.7	▲5.0	▲0.8	▲3.1	0.4	1.2	2.0	7.7	7.2

赤字額は、庁舎建設基金(貯金)などの繰入により調整。黒字額は、基金への積立・借金の繰上償還(返済)へ充てる。
※単年度収支: その年度に見込まれる歳入(収入)と歳出(支出)の差

広告事業をはじめます!!
PR

市の広報紙やホームページなどで あなたのお店をPRしませんか?



市の所有する印刷物やホームページ・公共施設などに民間事業者の皆さんの広告を掲載し、広告料収入を得る「広告事業」をスタートします。

この事業は、市の資産を民間事業者の皆さんの広告スペースとして有効に活用いただくことにより、市の新たな財源を確保するとともに、市民サービスの向上を図ることを目的としています。

ただし、掲載できる広告の内容は、市民の皆さんに不利益を与えない中立性のあるものとし、意見広告、政党・政治団体の広告、宗教関係の広告、個人の名刺広告などについては掲載できません。

事業の詳しい内容や掲載を希望される場合は、
財政課財政係(☎0824-73-1129)までお問い合わせください。

安心 & 安全な毎日のために 防災編

庄原消防署 ☎0824-72-9911

冬支度は万全ですか

12月に入り、一段と寒さが増してきます。ストーブなど暖房器具を使用する機会が多くなりますが、今一度、次のことに注意をして火災予防に心掛けましょう。



- 給油するときは、灯油であることを確認する。
- 火をつけたまま、給油や持ち運びをしない。
- 給油後には、石油タンクのキャップが閉まっているか必ず確認する。
- 周りに燃えやすいものやスプレー缶などを置かない。また、洗濯物を干さない。
- 点火時に灯油がこぼれていないか、チェックする。
- 部屋を離れるときは、火を消す。
- 定期的に部屋の換気を行う。

平成19年庄原市消防出初式

新春を飾る、消防出初式が盛大に挙行されます。

- とき 1月14日(日) 9時30分～
- ところ 庄原市総合体育館
- 内容 式典・観閲など
- 問い合わせ 総務課行政係 ☎0824-73-1123



11月12日に西城で行われた大規模林野火災想定訓練

11月10日、国際ソロプチミスト庄原から庄原市役所へ防犯パトロールカーを寄贈する贈呈式が行われました。国際ソロプチミスト庄原は、人権と女性の地位を高める奉仕活動をしている団体。近年、子どもが被害に遭うなどの事件などが数多く報道されていることもあり、防犯活動に役立ててもらいたいこと、青色回転灯を装備した防犯パトロールカーを市へ寄贈しました。



市役所前で市長が試乗



市長から感謝状が贈られました

犯団体と協力して、防犯パトロールを行います。

国際ソロプチミスト庄原が防犯パトロールカーを寄贈



1歳ごどもの発熱

庄原赤十字病院
小児科
多田 昌弘



なぜ1歳ごどもたちは
発熱するのか？

小児期は生まれてから今までに出会ったことのないウイルス・細菌などによる感染症を繰り返します。その際に、そのウイルスや細菌などの病原体を退治する過程で体は熱をつけます。これが「発熱」です。発熱していることは病原体と体が戦っている証拠です。

病原体の種類

病原体には大きく分けて「細菌」と「ウイルス」があります。細菌の特徴は、自分で数を増やしていくことができる点です。ウイルスは人や動物の細胞を借りて分身を作って増えていきます。

一般的に自分で増殖できる「細菌」の感染の方が症状が強くなります。

病原体ごとの治療法

「細菌」には抗生物質が効果的です。「ウイルス」には抗生物質は効きません。残念ながら現在いわゆる「風邪のウイルス」をやっつ

ける薬はほとんどありません。

「ウイルス」に対する治療法

現在、ウイルスに対する薬として使用されているものは、ヘルペスウイルス属に対してアシクロビルとインフルエンザに対するリン酸オセルタミビル(商品名タミフル)などごくわずかです。つまりそれ以外の「ウイルス」を直接やっつける薬はありません。それでは、「ウイルス」感染(普通の風邪のことです。)としてしまったときはどうすればいいのか…

対症療法



ほとんどの「ウイルス」には薬が効かないので自分の体が「ウイルス」をやっつける間サポートすることが大事になってきます。これを対症療法といえます。発熱に対する対症療法はクーリング(冷

やすこと)や解熱剤、脱水には水分補給、点滴などが対症療法の代表です。対症療法のなかで点滴などは病院で出来ますが、自宅できるところの方がたくさんあり、クーリング、水分補給などの対症療法は大事です。

発熱の対症療法

発熱した時の対症療法は、クーリングが真っ先に思い浮かぶと思いますが、自宅でクーリングする時にちよつとしたポイントがあります。

最初のポイントはタイミンクです。「発熱した↓冷やす」が正しい順番ではありません。

まず、典型的な発熱の経過(図1)をみて下さい。平熱から熱が上がる時期(A)と熱の高さが一定になる時期(B)があります。(A)の時期は病原体をやっつけるために体が熱をがんばってつくり出します。始めは、体の中心から温度を上げていくために手足の先は冷たくなります。この時期は、悪寒(おかん)といって熱が出ているのに寒くて震える状態に

なります。この震えるのも体が熱をしようとする動きです。

(A)の時期がある程度続くと、ほぼ一定の体温になって体の中心の熱が手足に拡がります。この(B)の時期になると、震えもあまり本人は熱さを感じません。

(A)の時期は熱が出ていても「温める」タイミンクで(B)の時期が冷やすタイミンクです。まめに体温を測ってタイミンクを見極めるか、手足を触って見極めるのが簡単な方法です。

次のポイントは、冷やす方法です。最近では、薬局などで冷却ジェルなど便利な商品が売られています。最近では、多少面倒ですが、氷だつたり保冷剤(クーキヤ)やアイスを買ったときについてくるものの方が効果的です。また、効果的に体温を下げるためには、太い動脈が通っていて体の表面に近い場所を冷やすことが大事です。具体的には、首の両側、脇の下の両側、内股の両側、おこしです。

医療機関受診のタイミンク

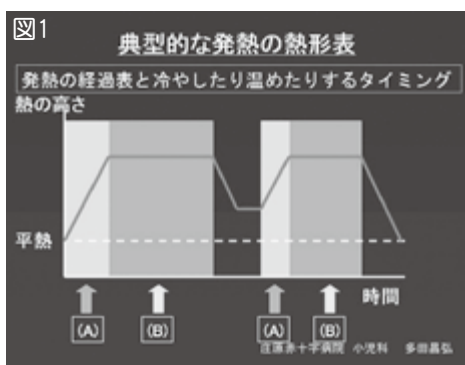
夜中でもいいので、すぐに医療機関へ受診していただきたいタイミンクがあります。生後3カ月未満の赤ちゃんが、38℃以上の発熱をしたときです。生後3カ月未満の赤ちゃんは、細菌に対する免疫力が弱く重症細菌感染症を起こす可能性が高いからです。一度熱を測って38℃を越えていたら、まず上着を1枚脱がせてください。

い。30分後くらいにもう一度測つてみて、38℃を越えているようなら受診してください。



他のタイミンクとしては

- 発熱が続いてぐったりしている。
 - 水分もとれず、おしっこがあまりでない。
 - 38℃以上の発熱が4日間は続いている。
 - よくわからない発疹ができた。
 - 頭を痛がり、吐き気がある様子。
 - なんだかずっとぐずぐずいって機嫌が悪いなどです。
- 以上は、症状が「発熱だけ」の時の医療機関へ受診するべきタイミンクです。他の症状がひどければタイミンクは変わります。



見て・食べて・遊んで！イベントいっぱい 親子の笑顔広がる「こどもまつり」

自然にふれる喜びと子育ての楽しみをみつけようと、第6回こどもまつりが11月5日、高原の家七塚で行われ、多くの家族連れで賑わいました。

庄原市保育所保護者会連絡協議会をはじめ市内の各種団体が構成するこどもまつり実行委員会が、子どもも親も楽しめるイベントにしようと企画。

森の遊び場では子どもたちの笑い声が響き、自然の素材で作るコーナーでは子どもだけでなく大人も夢中になって遊ぶ姿が印象的でした。

その他、田森・八幡保育所園児による「ちびっこ神楽」や、子育てサークルなどのパネル展、バザー、動物ふれあいコーナーなど、参加した家族は各イベントを心ゆくまで楽しんでいました。



ちびっこ神楽



森の遊び場で「しの竹鉄砲づくり」

各地域の「そば」を食べ比べ 庄原の新そばを楽しむ会

市内各地域のこだわりの「そば」を味わおうと、「庄原の新そばを楽しむ会」(楽笑座友の会主催)が11月11日、楽笑座で行われました。

市内6地域から、備後西城そば好き会(西城)、二八そば加工所(比和)、下領家自治振興区(総領)、一寸そば屋(庄原)、口和そばの会(口和)、そば工房みじゅくもん(東城)が出店。

ザルそばに辛味大根をすりおろしたのものや、甘辛い温かいダシで食べるそばなど、お客は新そば独特の風味や粘りを味わいながら、太さや喉ごし、ダシの違いを楽しんでいました。

昼限定の営業でしたが、440杯のそばを販売。中には一人で11杯食べた人もいました。



楽笑座



そば工房みじゅくもんのそば打ち



公園をめぐって健康づくり けんこうウォーキングin 国営備北丘陵公園

けんこうウォーキングin国営備北丘陵公園が10月22日、大芝生広場で行われました。

スタート前に、正しいウォーキング講座が行われ、参加者約450人が花の広場やオートビレッジなど公園を一巡りするファミリーコース(5km)と健脚コース(8km)を気持ちよく歩きました。

また、グアム旅行などの素敵な賞品が当たるお楽しみ抽選会や骨密度測定など各イベントを楽しみました。

母衣や武者100人が城下町を練り歩く 東城の華やかな伝統行事「お通り」

11月3日、東城の市街地中心部で、伝統行事「お通り」が開催されました。

東城小学校グラウンドでは、比婆荒神神楽の舞いや日舞、野点の披露、鉄砲隊による演武が行われ、オープニングを飾りました。その後、武者やサザンカの花飾りを挿した母衣など総勢100人余りの行列が、城下町の風情が残る町並みを約3km練り歩きました。

東城の「母衣」は、もともと戦場で武士が身に着ける矢よけ用の武具でしたが、時代の流れとともに、母の衣で包むという意味の装飾品になったといわれています。

見物客は、鉄砲隊が放つ大砲や鉄砲の音に歓声をあげたり、華やかな母衣やかわいらしい華童子の行列をカメラに収めたりしました。また、沿道の子どもたちは、「きれいで、かわいいね。私もやってみたい」と話していました。



武者行列



各地域で行われたイベント&話題を紹介するコーナーです。

カメラレポート



市長が殿様役に

城下町東城をアートで彩る 東城まちなみぶらり散歩ギャラリー

10月28日から11月5日までの9日間、東城のまちなみがギャラリーになりました。

初日のオープニングでは、東城保育所園児の『お通り』と田森ちびっこ神楽塾の舞を披露。期間中、各商店や民家、空店舗などに、刺し子・人形・陶芸などが展示されました。



貴重な器が並び

訪れた方は、展示作品を見ながら、まちなみに残る旧家のたたずまいや各家の骨董品など、最近ではあまり目にすることのできない品々に感心。また、地域の方々の温かいおもてなしに、「商店街に力があっていい町だ」との声も聞かれました。

期間中、五品獄城跡も色づき始め、紅葉と合わせて城下町東城をアピールしました。



観光客で賑う商店街



上野総合公園での清掃活動

「シルバーの日」、ボランティアで汗を流す 庄原市シルバー人材センターが清掃活動

庄原市シルバー人材センターの会員206人が10月4日～21日、市内の公園、グラウンド、支所などで、草刈りや清掃などのボランティア作業を行いました。

これは、シルバー人材センターの活動をアピールしようと、毎年10月の第3土曜日を「シルバーの日」に設定。この日を中心に各地域でボランティア活動を続けています。

21日には、94人が参加し、上野総合公園で草刈りや落ち葉の清掃などを熱心に取り組みました。

口和で日本の文化・習慣にふれる 国際交流ホームステイ

しょうばら国際交流協会が11月17日から19日の3日間、広島大学の短期留学生を招いて国際交流ホームステイ事業を行いました。

アジア地域やオセアニア、アメリカなどの大学から交換留学で訪れた9カ国14人が、口和の14家庭に宿泊。それぞれの家庭で出された地元の料理を食べ、家族のようにふれあいました。また、日本の文化を体験してもらおうと、受け入れ家庭の案内で、消防訓練・和服体験・口南小学校マラソン大会・お宮参りなどにも参加。口和の家庭を通して知った日本の文化や習慣、家族のきずなを持ち帰りました。

口和では、毎年行われるホームステイを通し、国際交流の輪が広がっています。



着物を着てお茶を楽しむ

透き通った歌声と美しいピアノのメロディ 比和人権講演会 自分らしく生きる

10月25日、比和文化会館大ホールで、比和人権講演会が開催されました。この講演会は、講師に作曲家・演奏家の前川裕美さんを迎え、『自分らしく生きる～夢と可能性を信じて～』と題して行われ、会場は161人の参加者で満席となりました。

講師の前川さんは、進行性の弱視「網膜色素変性症」という難病と闘いながら、夢をあきらめず努力を重ね、第2回ゴールドコンサート'05で総合グランプリを受賞しました。

講演では、病気に対する理解が得られず苦しんだことや、音楽の道を志したきっかけ、盲導犬グレースとの出会いなど、前川さんの体験談を話されました。

また、「パワーオブザワールド」や「フォールニューワールド」などディズニー映画の名曲や前川さんが作曲した「願い」など、アンコール曲を含め8曲のピアノ弾き語りを披露。「天使の歌声」と評された美しい歌声と心地よいピアノの旋律に、会場はさわやかな感動に包まれました。



盲導犬グレース



文化の秋、新しい郷土を発見 庄原市文化財めぐり

市内の様々な文化財を見学する「庄原市文化財めぐり」が、11月上旬の4日間行われました。

合併2年目を迎える今年を「文化財で新しい郷土を発見する一年間」と位置付け、生涯学習課が企画。夏休みに子どもを対象に行った「こども文化財探検隊」に続き、今回は大人を対象に、市内から延べ約90人が参加しました。

各支所などを出発地として、第1回「比婆山伝説とブナの森」(西城方面)、第2回「くろがねどころの城下町」(東城方面)、第3回「中世荘園を歩く」(庄原方面)、第4回「帝釈峡の奇岩と遺跡」(東城・総領方面)と4回に分けて実施。

庄原市文化財保護審議会や教育委員会職員など、専門家の説明を受けながら、かけがえのない庄原市の自然・歴史・文化を堪能しました。



円通寺本堂



帝釈峡の奇岩

長年の森林活動が高く評価 小鳥原みどりの少年団が全国育樹祭で表彰

森林学習や森林活動に取り組む小鳥原みどりの少年団が、10月21日に行われた全国緑の少年団活動発表大会で発表し、国土緑化推進機構から「緑の奨励賞」及び「松本賞」の表彰を受けました。また、翌日の広島県立森林公園において開催された第30回全国育樹祭で大会会長賞を受賞し、日本全国の緑の少年団を代表して、2人の児童が発表を行いました。

小鳥原みどりの少年団は、昭和56年、自然を愛護し育てるために協力し、社会奉仕することを目的に結成。どんぐりに関わる森林学習や親子で自然保護を訴える看板作りなどの森林活動、国道への花壇づくりと美化活動、交通安全マスコット配りなどの様々な活動を行い、このたびその活動が高く評価されました。

また、11月8日には、庄原市西城地区公衆衛生推進協議会からも感謝状が贈られました。



全国育樹祭で発表する



産地だから、一番おいしいものを まちの収穫祭「西城ふるさと祭」

10月22日、まちの収穫祭「西城ふるさと祭」が開催され、自治振興区対抗の運動会や特産品販売など、様々なアトラクションが行われました。



すくもくど

今年のメインイベントは、「西城の新米の食べ比べ」。これは、産地に暮らす私たちが、一番おいしい食べ方を知り、伝えていこうとする試み。大佐地区の減農薬・減化学肥料・水車でついた「こしひかり」、標高700mの油木地区で栽培された「あきたこまち」、ひろしま牛生産者・農青連西城支部が有機肥料で育てた「こしひかり」ヒバゴン米の三種の新米が「かまど」や「すくもくど」で炊かれ、来場者にふるまわれました。

甘味、粘り、香りなど、いずれも深い味わいと特徴を備え、食べ比べの参加者からは、「どれも甘味があっておいしい」「おこげが懐かしい」「すくもくどのご飯は初めて」など、米のおいしさに驚きの感想が寄せられました。



賑わう出店ブース



永川投手からアドバイスを受ける

備北丘陵公園に キャッチボールエリア誕生 カープの選手が少年野球教室

国営備北丘陵公園に誕生したキャッチボールエリアを広くPRしようと11月12日、広島東洋カープの選手の指導で庄原少年野球教室が行われました。

市内9つの少年野球チームから約130人が参加。庄原市カープ応援隊の協力で招いた永川・高橋(建)両投手、山本捕手、嶋・森笠両外野手から、ボールの投げ方や捕り方などを教わりました。また、似顔絵キーホルダープレゼントのほか、カープグッズが当たるお楽しみ抽選会には観客を含め約600人が参加しました。

このキャッチボールエリアは、近年インターネットやテレビゲームなどの影響により、外で遊ぶ子どもたちが少なくなっていることから、(社)日本公園緑地協会を事務局とするキャッチボールのできる公園づくり推進会の助成により整備されました。

森林・林業体験学習の森を整備 森の学校高野分校「豊かな里山づくり」

11月3日、森の学校高野分校(庄原市林業研究グループ連絡協議会主催)が、高野町和南原で開校されました。

この取り組みは、林野庁の事業の一環として、「地域の後継者を育てよう」をテーマに実施。当日は、地元の高野町森林・林業研究会、和南原緑の少年団、和南原子供会から、小・中学生27人と大人30人が参加し、松の植林地での枝打ちと広葉樹林の森を整備しました。手造りトイレやぶらんこ・ターザンロープなどが設置された広葉樹の森では、ネイチャーゲームなども体験し、終日森の中に歓声がこだましました。

指導にあたった広島県指導林家の前田正人さんは、「この機会に、身近な森林と自分たちの関わりについて理解し、地域の後継者になってほしい」と話していました。

今後この整備された森で、里山を活かした森林・林業体験学習が期待されます。



紅葉の中、バイクテクニックを競う 第11回水源の森ツーリングトライアルinひわ

11月5日、全国各地から74人が参加して、水源の森ツーリングトライアルin比和が開催されました。このトライアルは、自然の美しさを楽しみながら競技を通じて選手同士やスタッフが交流し友情を深めることを目的に行われ、今年で11回目を迎えました。

参加者は、技術やバイクの排気量などにより3クラスに分かれ、比和町内の林間に設けられた30セクションで腕前を競いました。紅葉シーズン真っ只中の美しい山々を、華麗なテクニックで疾走するライダーたちに地元から大きな声援が送られました。



41年の歳月を経て完成 灰塚ダム竣工式

総領町、三次市三良坂町、吉舎町にまたがり建設されていた灰塚ダムが完成し、竣工式が11月11日に三次市三良坂町のダム堰堤付近の広場で開催されました。総領の関係住民など約600人が出席し、完成を祝いました。

灰塚ダムは、洪水調整、水道用水源の確保などを図るため、建設省(現在は国土交通省)の直轄事業として進められたもので、広島市民球場150杯分の水を貯めることができます。

昭和40年の予備調査開始以来、数々の困難を乗り越え、41年の歳月を経て完成しました。滝口市長は、式典で「先祖から受け継ぎ、守り続けてきた愛着のある地域の中で、田や畑を耕し営々と暮らしてこられた地元関係者の方々への影響は大きいものがありました。水没された地元関係者のご支援、ご協力に対し、心より感謝の意を表します」と述べました。

今後、総領地域のシンボルとして、訪れる人々に憩いとやすらぎを提供する美しいダムとしても期待されます。



ホームランバットの木を育てよう アオダモの杜植樹祭

"灰塚ダム湖畔にホームランバットの木を育てよう"と、アオダモの杜づくり実行委員会が11月19日、灰塚ダム湖畔(総領町稲草)の「なかつくに公園」で、アオダモの杜植樹祭を開催しました。

バットの原料となるアオダモなどの植樹に、市内の少年野球チーム約60人が参加。広島東洋カープの松田オーナー、ブラウン監督、朝山東洋コーチ、末永真史選手、井生崇光選手と一緒に、将来バットとなる木に育つようお願いしながら、苗木211本を約700メートルの遊歩道沿いに植えました。

植樹の後、餅つきや田舎の里自治会の皆さんが用意した豚汁とぜんざいで昼食を食べながら、カープ選手と少年野球チームの子どもたちとの交流が行われました。

「なかつくに公園」は、平成19年4月に完成予定です。



ブラウン監督と植林



県高校駅伝で清谷くんと大下くんが区間賞 全国高校駅伝の切符をつかむ

▲清谷くん(左)と大下くん(右)。3年生の2人は卒業後、箱根駅伝という夢に向かって走る。

クローズ CLOSE UP アップ 話題の人に迫る

世羅高校は全7区間で区間賞を独占するなど、常にトップを独走。4区を走った清谷くんは区間新記録の快走を見せ、アンカーを走った大下くんは2位の近大福山高校に3分以上の大差をつけ、ゴールテープを切った。

「全国高校駅伝に出場することが最低限の目標だったので、ほっとしている。区間新記録は意識していなかったが、チームのために自分の責任を果たせてうれしい」と清谷くん。主将としてチームを引っ張った。また、大下くんは「優勝してうれしかったが、自分の思い通りの走りができなかったので、悔しさも半分ある」と、高いレベルを追い求める。

世羅高校の陸上部員は54人。朝練習は6時から始まり、7キロ走と筋力トレーニング。夕方は約2時間の練習で14キロを走るなど、毎日20キロ以上を走り込む。きつい練習も、全国制覇という高い目標が支えている。

広島県高校駅伝が11月5日、みよし運動公園陸上競技場を発着点とするコースで行われ、市出身者の清谷匠くん(板橋)と大下徹くん(総領)が区間賞の走りで世羅高校を優勝に導いた。

昨年、世羅高校は全国高校駅伝で準優勝。6区を走った清谷くんは「チームは準優勝したが、緊張で自分の走りができず悔しい思いをした」という。今年はいんターハイで8位に入賞し、また国体にも出場するなど、全国レベルの大会で経験を積み自信をつけている。岩本真弥監督も「無駄のない積極的な走りで、スピードがある。主将としてチームをひっぱり上げる人間性が魅力」と全幅の信頼を寄せる。

全国大会のメンバーの提出は12月上旬。岩本監督は1区

のジョセフ・ギタウくん、3区の笠坂くん、4区の清谷くん以外はメンバーを決めないという。残り4人のメンバーの座を狙って15人ぐらいが横一線に並ぶ。大下くんは強豪校ならではの激しいメンバー争いに挑んでいる。

全国大会で勝つには、部員一人ひとりが高い意識を持つことが大切。「普段の生活から日本一。当たり前前」などを当たり前にする「など、部員全員が全国トップレベルの生活態度を心がける。



あっぱれ! 庄原

全国レベルの大会出場者、全国・県レベルの大会、市が主催する各種大会などの上位入賞者を掲載します。

該当する方の情報は情報推進課広報統計係(☎0824-73-1159)までお寄せください。

全国大会

第61回国民体育大会

(10月1日～4日・尼崎スポーツの森)

●金藤理絵(三次高3年・山内)
種目 競泳少年女子A
200m 平泳ぎ 第3位



第33回全日本杖道大会

(10月8日・江戸川区スポーツセンター)

●谷口裕基(庄原中3年)
●佐倉康隆(庄原中3年)
種目 初段の部
優秀賞(第1位)



左から佐倉くん・谷口くん

第6回全国障害者スポーツ大会

(10月14日～16日・神戸総合運動公園ユニバー記念競技場)

●小田雅平(比和)
種目 陸上100m 優勝
走幅跳 第5位



第61回国民体育大会

(10月1日～3日・伊丹スポーツセンター体育館)

●木村美香(西城)
種目 なぎなた競技成年女子
(10月6日～10日・神戸総合運動公園陸上競技場)

●清谷 匠(世羅高3年・板橋)
種目 陸上競技少年男子
5,000m

第21回国民文化祭

(11月5日・周南市文化会館)
庄原格致高等学校吹奏楽部

第19回全国健康福祉祭ねんりんピック静岡2006

(10月28日～30日・静岡県富士水泳場)
●加藤冷子(総領)
種目 水泳50m自由形・100m自由形

平成18年度全日本卓球選手権大会(カデットの部)

(11月10日～12日・鳴門県民体育館)

●山本達也(庄原中2年)
種目 男子ダブルス
●中田一也(高南小6年)

種目 13歳(中学1年生)以下男子シングルス・男子ダブルス

県大会など



けんみん文化祭ひろしま'06「芸能の祭典」

(10月15日・三次市文化会館)
●百音の会(庄原)
部門 大正琴の部
●最優秀賞(第1位)
けんみん文化祭和太鼓フェスティバル (10月29日・海田中学校体育館)

西城川子供太鼓

●部門 小学生の部 優秀賞

市大会など

第2回庄原・絵手紙大賞

(10月7日・市民ギャラリーアート多愛夢)
●子どもの部(応募71点) 大賞
●板倉裕也(小奴可小1年) 優秀賞
●堀 美陽(高南小6年) 優秀賞
●城戸口舞(高小4年) 優秀賞
●實延晴子(比和小3年) 大賞
●一般の部(応募95点) 大賞
●藤原玉江(本村) 優秀賞
●市岡和子(宮内) 優秀賞
●吉政澄江(実留) 優秀賞
●前幸幸子(川西)



板倉くん

第1回庄原市民健康づくりグラウンド・ゴルフ大会

(10月29日・田総の里スポーツ公園グラウンド・ゴルフ場) 7地域から32チーム160人が参加

●団体戦 優勝 東城地域
準優勝 庄原地域
第3位 西城地域

●個人戦男性の部 優勝 八藤 薫(東城)
準優勝 渡部 保(庄原)
第3位 盛定通人(東城)
第4位 藤本 武(庄原)
第5位 村上博基(東城)

●個人戦女性の部 優勝 福見武子(西城)
準優勝 大橋啓子(東城)
第3位 井上ミヨコ(東城)
第4位 成相佐智子(総領)
第5位 木下春枝(庄原)



生活相談

身体障害者
定期相談(判定)会

〔聴覚〕 12月21日(木)
受付13時～14時
ところ 備北地域事務所第3庁舎2階
※1週間前までに社会福祉課生活福祉係
(☎0824-73-1166)
へ予約してください。

心の健康相談

ストレス・対人関係の悩み、不眠やイライラ、思春期などの心の悩みや問題について相談を受けます。
とき 12月19日(火)
受付13時30分～14時30分
ところ 備北地域保健所
※予約が必要です。

人権相談(特設)

各地域で人権擁護委員が
備北地域保健所
☎0824-63-5181
問い合わせ

相談に応じます。
●庄原地域
とき 12月12日(火)・1月9日(火)
13時30分～16時30分
ところ 庄原市ふれあいセンター

●東城地域

とき 1月4日(木)
13時30分～16時30分
ところ 東城町老人福祉センター

●口和地域

とき 12月21日(木)
13時30分～16時30分
ところ 口和老人福祉センター

●比和地域

とき 12月21日(木)
13時30分～16時30分
ところ 比和文化会館

●総領地域

とき 12月11日(月)
9時～12時
ところ 総領健康福祉センター

社会保険一日相談

年金を中心とした社会保険全般の相談を受けます。
☎0824-72-0311
問い合わせ

●庄原地域

とき 12月12日(火)・1月9日(火)
10時～12時・13時～15時
ところ 長岡本社ビル3階(西本町)

●東城地域

とき 12月20日(水)
10時～12時・13時～15時
ところ JA庄原東城支店

定期巡回児童相談

備北こども家庭センターが子育てに関する相談に応じます。
●庄原地域
とき 12月15日(金)
10時～15時
ところ 庄原市老人福祉センター

●東城地域

とき 12月22日(金)
ところ 東城町文化会館
※1週間前までに予約してください。
問い合わせ
庄原地域
児童福祉課子育て支援係
☎0824-73-0051

東城地域

東城支所保健福祉課福祉係
☎08477-2-5131
ハロウィーク
サービスデー

ハロウィーク

ハロウィーク庄原では、東城地域で、仕事の相談、雇用保険の相談、その他の相談を毎月第2水曜日に行っています。
とき 12月13日(水)
10時～12時 13時～15時
ところ 庄原市役所東城支所
※東城地域以外の方も相談できます。

サービスデー

とき 12月13日(水)
10時～12時 13時～15時
ところ 庄原市役所東城支所
※東城地域以外の方も相談できます。

税務

申告書」を税務課または各支所市民課・市民生活課へ提出してください。(様式は税務課に備え付けています)
取り壊しまたは滅失した家屋の固定資産税は、翌年度から課税されません。
また、家屋を新築・増築した場合や、家屋の用途を変更された場合(例 住宅から店舗へ、店舗から倉庫へなど)も、あわせて連絡をお願いします。
問い合わせ
税務課資産税係
(☎0824-73-1144)
または各支所市民課・市民生活課

催し

比婆山神話の道あかり

ふれあいの里越原一帯の県道わきに、間伐材を使って作る「きこりのろうそく」を並べ、火を灯します。神秘的な灯りが比婆山神話の世界へいざないます。
心も体も温まるしし汁の無料サービスもあります。

家屋の取り壊しや
新増築の届け出を

固定資産税は、その年の1月1日現在に、固定資産(土地、家屋、償却資産)を所有している方に課税される税金です。家屋を取り壊された場合や、災害などによって家屋が滅失した場合には、「家屋異動

その他

工業統計調査にご協力を

今年も12月31日を基準日として、工業統計調査を実施します。この調査は、製造事業を営む事業所を対象に、その活動実態を明らかにすることを目的とし、その調査結果は、経済白書の作成に利用されるなど、国や地方公共団体の行政施策の重要な資料として利用されます。
年末年始にかけて、ご多忙中とは思いますが、対象となる事業所には調査員が伺いますので、調査に対するご協力をお願いします。
なお、提出していただいた調査票については、統計法に基づきその内容の秘密は厳守されますので、正確なご記入をお願いします。

水道管にも冬じたくを

本格的な寒さを迎える季節となりましたが、水道管の防寒対策は万全ですか。
気温がマイナス4度以下になると、防寒の不十分な水道管は凍ったり、破裂したりすることが多くなります。水道管が破裂して漏水が起これば、修理代や水道料金など負担していただくことになるばかりでなく、水資源の無駄使いにもなります。
凍りやすい水道管は、タオルや毛布、専用のチューブなどを使って必ず防寒し、破裂事故を未然に防ぎましょう。
凍ってしまったら…
凍った部分にタオルをかぶせて、その上からぬるま湯をゆっくりかけて溶かしてください。

破裂したら…

水道メーターボックス内にあるバルブを閉めて、お近くの指定給水装置工事業業者に修理を依頼してください。
問い合わせ
水道課工務係
☎0824-73-1170

募集

森のクリスマス
パーティー

西城地域の市民演奏家で構成する「西城ブルーハーモニーク奏楽団」の演奏を聞きながら、ディナーを楽しむクリスマスパーティー。

西城温水プール「水夢」
フェスティバル水泳大会

幼児の部から一般まで24種目が行われます。
とき 12月23日(祝)
開会式 9時
アトラクション 9時20分
競技開始 9時40分
問い合わせ
西城温水プール「水夢」
☎0824-82-2446

備北短歌大会作品

広島県文化団体連合会備北支部、庄原市文化協会が主催する短歌大会の作品を募集します。
大会日時 3月10日(土)
ところ 庄原市ふれあいセンター
募集作品 自由詠一人2首以内(自作・未発表のもの)
出詠料 1首1,000円
応募先
〒727-0005
庄原市川手町1318-3
備北短歌大会運営委員会
事務局 林 武志 宛
締め切り
1月19日(金)必着
問い合わせ
庄原市文化協会 林 武志
☎0824-72-3286

工業統計調査に

今年も12月31日を基準日として、工業統計調査を実施します。この調査は、製造事業を営む事業所を対象に、その活動実態を明らかにすることを目的とし、その調査結果は、経済白書の作成に利用されるなど、国や地方公共団体の行政施策の重要な資料として利用されます。
年末年始にかけて、ご多忙中とは思いますが、対象となる事業所には調査員が伺いますので、調査に対するご協力をお願いします。
なお、提出していただいた調査票については、統計法に基づきその内容の秘密は厳守されますので、正確なご記入をお願いします。

水道管にも冬じたくを

本格的な寒さを迎える季節となりましたが、水道管の防寒対策は万全ですか。
気温がマイナス4度以下になると、防寒の不十分な水道管は凍ったり、破裂したりすることが多くなります。水道管が破裂して漏水が起これば、修理代や水道料金など負担していただくことになるばかりでなく、水資源の無駄使いにもなります。
凍りやすい水道管は、タオルや毛布、専用のチューブなどを使って必ず防寒し、破裂事故を未然に防ぎましょう。
凍ってしまったら…
凍った部分にタオルをかぶせて、その上からぬるま湯をゆっくりかけて溶かしてください。

破裂したら…

水道メーターボックス内にあるバルブを閉めて、お近くの指定給水装置工事業業者に修理を依頼してください。
問い合わせ
水道課工務係
☎0824-73-1170

市内の主な施設 年末年始の業務状況

年末年始の業務予定については、次の表の通りです。黒色の部分が休業日となりますのでご確認ください。
 なお、「出生」、「死亡」、「婚姻」など戸籍に関する届け出や、埋火葬、斎場使用の許可手続などは、休み中でも取り扱います。詳しくは担当課へお問い合わせください。また、市水道工事で緊急の場合は、次の表の事業者(庄原、東城地域以外は、指定の工事店)へ連絡してください。

日 時	庄原地域(市外局番:0824)		東城地域(市外局番:08477)	
	指定工事事業者	電話番号	指定工事事業者	電話番号
12月29日(金)	ケイワイ設備(有)	74-0109	宮田建設(株)	2-2181
30日(土)	(有)石田設備工業	72-7622		
31日(日)	(有)三誠金属工作所	72-0038		
1月1日(月)	(株)小林建設	72-2185	(有)日進設備工業	2-0312
2日(火)	(株)玉川工務店	72-0288		
3日(水)	(株)スイセイ設備	72-3700		



施設名	電話番号	12/28(木)	29(金)	30(土)	31(日)	1/1(月)	2(火)	3(水)	4(木)	5(金)
		市役所(本庁・各支所)	電話 0824-73-1123							
保健センター	電話 0824-72-7074									
田園文化センター	電話 0824-72-1159									
図書館・各分館										
総合体育館	電話 0824-72-8000									
ふれあいセンター・隣保館	電話 0824-75-0301									
市民会館	電話 0824-72-0849									
中央公民館										
西城市民病院	電話 0824-82-2611									
西城温水プール	電話 0824-82-2446									
西城歴史民俗資料館	電話 0824-82-2445									
西城体育館・球技場	電話 0824-82-2445									
クロカンパーク	電話 0824-84-2727									
時悠館	電話 08477-6-0161									
口和郷土資料館	電話 0824-87-2230									
たかの温泉	電話 0824-86-2251									
比和体育館	電話 0824-85-3005									
比和総合運動公園	電話 0824-85-3005									
ごみ処理 持ち込み	収集(東城地域以外)									
	収集(東城地域)									
	備北クリーンセンター	電話 0824-72-2044	※1							
	リサイクルプラザ	電話 0824-72-1398	※1							
東城クリーンセンター	電話 08477-2-0214									
	東城資源ごみ集積所	電話 08477-2-1026								
し尿の汲み取り										
市金庫(庄原市指定金融機関派出)	電話 0824-73-1142									

■が休業日

※1:備北クリーンセンターとリサイクルプラザへの持ち込みは、29日(金)の15時まで

【庄原市メールアドレス】 shobara@city.shobara.hiroshima.jp



医療業務従事者届

平成18年12月31日は、医療業務従事者届(2年ごと)の基準日です。

全ての医師・歯科医師及び薬剤師、また、就業している保健師・助産師・看護師・准看護師・歯科衛生士・歯科技工士の方は、医療業務従事者届を来年1月15日までに近くの保健所へ提出してください。届出用紙は、勤務先、保健所、県庁医務看護室で配布します。

問い合わせ

備北地域保健所厚生推進課
 ☎0824-63-5181

狂犬病にご注意を!

先般フィリピンからの帰国者で、相次ぎ2人の方が狂犬病の輸入感染症例と確認されました。

日本では、昭和45年ネパールから帰国した方が発症して以来ですが、海外ではいまだ狂犬病の流行が続いている地域があります。

庄原市では、狂犬病予防対策の一環として、犬の集合注射を実施するなど、その発生予防に努めています。

狂犬病にかからないために
 1、海外旅行中は、むやみに犬や野生動物に接触しないようにしましょう。
 2、特に発生の多い地域への渡航については、あらかじめワクチン接種を受けましょう。
 万一度航先で犬などにかまれた場合

現地医療機関を受診し適切な治療をうけるとともに、帰国時に検疫所(健康相談室)に相談してください。

狂犬病の特徴
 狂犬病は狂犬病ウイルスの感染によって引き起こされる致死的な動物由来感染症で、以下のような特徴があります。

- 1、有効な治療法はないため、発症すれば、ほぼ100%死亡すること。
 - 2、狂犬病患者の大半は潜伏期が1〜3カ月と長いこと。
 - 3、ほとんど全ての哺乳動物が病気になること。
 - 4、地域によって感染源動物が異なること。
 - 5、発症する前に狂犬病ウイルス感染の有無を知る手段がないこと。
- 現在でも狂犬病ウイルスに有効な薬剤はなく、病気に

庄原市立図書館臨時休館のお知らせ

12月17日(日)、図書館システムのメンテナンスのため、一部で臨時休館します。ご不便をおかけしますが、ご協力よろしくお願いします。

※田園文化センター内、倉田百三文学館・歴史民俗資料館・多目的ホールはご利用いただけます。
 ※開館でも、手続きに時間がかかることが予想されます。ご理解の程よろしくお願いします。

本館	臨時休館
西城分館	通常どおり開館 (10:00~18:00)
東城分館	通常どおり開館 (14:00~18:00)
口和分館	定休日
高野分館	臨時休館
比和分館	臨時休館
総領分館	定休日

☎0824-72-1398

かかった動物にかまれた場合の対応は、直ちにワクチン接種などを行い、狂犬病の潜伏期間中に免疫を獲得させる狂犬病発生予防の方法が行われています。
 問い合わせ
 環境衛生課環境政策係

広島県立三次看護専門学校 入学生募集

次のとおり学生を募集します。

学科	募集人員	受験資格	修業年限	受付期間	試験日
第一看護学科	60人	高等学校卒業後(平成19年3月高等学校卒業見込みの者を含む)、又はこれと同等以上の学力があると認められる者。	3年	1月4日(木)~15日(月) (郵送の場合は1月15日の消印有効)	1月25日(木)
					1月26日(金)
第二看護学科	20人	准看護師の免許取得後、3年以上業務に従事している者。若しくは、准看護師の免許取得者(平成19年3月免許取得見込みの者を含む)で高等学校卒業後(平成19年3月卒業見込みの者を含む)、又は高等学校卒業と同等以上の学力があると認められる者。	2年		1月24日(水)

問い合わせ 広島県立三次看護専門学校 ☎(0824)62-5141

犬・猫の引き取り

12・1月の犬・猫の引き取りは、次の日程で実施します。なお、手続きには認印が必要です。持参してください。

日程	場所および時間
庄原地域 12月第1～第3火曜日 12月5・12・19日 1月第2～第4火曜日 1月9・16・23日	東公民館……………11時～11時10分 市役所車庫前……………11時25分～11時35分 敷信公民館……………11時50分～12時
西城地域 12月第1・第3木曜日 12月7・21日 1月第3木曜日 1月18日	西城支所……………9時～9時10分
東城地域 12月第1・第3木曜日 12月7・21日 1月第3木曜日 1月18日	小奴可研修センター……………9時40分～9時50分 東城文化会館……………10時20分～10時30分
口和地域 12月第4金曜日 12月22日 1月第4木曜日 1月25日	口和支所……………11時40分～11時50分
高野地域 12月第4金曜日 12月22日 1月第4木曜日 1月25日	高野支所……………13時20分～13時30分
比和地域 12月第4金曜日 12月22日 1月第4木曜日 1月25日	比和支所……………13時50分～14時
総領地域 毎月第2水曜日 12月13日 1月10日	総領支所……………9時40分～9時50分 (スクールバス駐車場)

※庄原地域の12月26日と1月2日は、定期収集がありません。
※西城・東城地域の1月4日は、定期収集がありません。
※口和・高野・比和地域については、12月28日が休日となりますので、12月22日に引き取りを行います。

市民ギャラリー「アート多愛夢」情報

市街地の空き店舗を活用した、各種展示ができる市民ギャラリーです。

1月の展示案内

- 赤木式創作折紙展 7日(日)～10日(水)10時～17時 ※入場無料
- 折紙教室 8日(祝)13時～
- 問い合わせ
庄原市文化協会事務局 電話0824-72-4347(白川)
生涯学習課社会教育係 電話0824-73-1188
商工観光課商工振興係 電話0824-73-1179
※展示を希望される団体(または個人)はお申し込みください。使用料はいりません。

休日診療のご案内

12月・1月の休日診療については、次のとおりです。

月日	診療所名	電話番号
12月10日(日)	林 医 院	0824-72-0121
17日(日)	戸 谷 医 院	0824-72-3131
23日(祝)	牧 原 医 院	0824-72-0057
24日(日)	河 本 医 院	0824-75-0311
31日(日)	牧 原 医 院	0824-72-0057
1月1日(祝)	河 本 医 院	0824-75-0311
2日(火)	庄原赤十字病院	0824-72-3111
3日(水)	笠 間 医 院	0824-72-0535
7日(日)	笠 間 医 院	0824-72-0535
8日(祝)	田 淵 医 院	0824-72-3900

※庄原赤十字病院については、救急患者に限ります

●東城地域

月日	診療所名	電話番号
12月10日(日)	日 伝 医 院	08477-2-2180
17日(日)	三上クリニック	08477-2-1151
23日(祝)	こぶしの里病院	08477-2-5255
24日(日)	東 城 病 院	08477-2-2150
29日(金)	瀬 尾 医 院	08477-2-0023
30日(土)	こぶしの里病院	08477-2-5255
31日(日)	細 川 医 院	08477-2-0054
1月1日(祝)	東 城 病 院	08477-2-2150
2日(火)	瀬 尾 医 院	08477-2-0023
3日(水)	こぶしの里病院	08477-2-5255
7日(日)	日 伝 医 院	08477-2-2180
8日(祝)	三上クリニック	08477-2-1151

くち いち

1月の 九日市

庄原地域の市街地で、毎月9日に開催される市です。

とき 1月9日(火) 10時～
ところ 中本町筋・下本町・中央通り
ぜひお越しください。

人の動き (10月末日現在)

【住民基本台帳登録人口】

- 人口 43,268人(前年比-637人)
- 男 20,502人(前年比-331人)
- 女 22,766人(前年比-306人)
- 世帯数 16,295世帯(前年比+35世帯)

【外国人登録人口】

- 人口 310人(前年比+23人)

広報日記

先日の自治振興区実践リレー講座で、講師から「庄原市の特徴や売りは何か？」と問われた。さうして「庄原市を全国へ売り出すためには、〇〇のまち」というように大きな柱が一つ必要だと言われました。庄原市には、雄大な自然や農産物をはじめ、帝釈峡公園・りをはじめ、帝釈峡公園・りがあり、また、それぞれ個性が異なりますが、一つ大きな柱という答えは簡単にてきません。さうして、このことが気になりながら、先日旅行に行くとき、旅先で印象に残るのは、当地のグルメ、釜の寿司、仙台の牛タンなど、庄原ならではの名物を探したり作ったりすることが、庄原市を広くアピールする近道ではないかと思いました。

備北丘陵公園

だより

備北公園管理センター ☎0824-72-7000

「注目!」光と音のスターライ トツリー!」

ウインタールミネーションのシンボル、高さ10mのイルミネーションツリーが、今年は素敵なクリスマスソングにあわせてその色を変える「光と音のスターライ トツリー」として新登場! 光と音楽のコラボレーションをお楽しみください。

「ひばの里」に「光の大河」が登場!

昔ながらのさとやまの風景を再現したエリア「ひばの里」。田んぼの上には無数の光が集まり、にぎやかに輝く街中の広場へ流れる「大河」をイメージしたイルミネーションがダイナミックに描かれます。川の流れるほとりには、光に連れられてかわいらしい木の動物たちが遊んでいます。

「庄原からシャトルバス運行」期間中の金・土・日曜日には庄原バスセンターからの直通バス及びかんぼの里と公園を結ぶシャトルバスが運行されます。かんぼの里から公園へのシャトルバス運賃と入園券がセットになったお得なセット券も販売されます。バスなら冬のアクセスも安心です。なお、「ウインタールミネーション」期間中のイベントの詳細な日程につきましては、電話もしくは公園ホームページ <http://www.bhokku-park.jp/>にてご確認ください。年末年始の閉園日については、12月30日(土)まで閉園します。31日(日)、1月1日(祝)は休園日となり、新年は1月2日(火)より開園します。




22万球の光と音を楽しむ

コンサートなどイベントもいっぱい

食彩館しょうばら

ゆめさくら

☎0824-75-4411

【12月のイベント情報】

- ゆめさくら手作り講座～田舎の味作り講座～
とき 12月10日(日)10時～14時
参加費 1,500円 定員20人
- クリスマスケーキ作り講座
とき 12月17日(日)13時30分～16時
参加費 1,500円 定員20人
- かぼちゃ汁試食会～冬至に寄せて～
とき 12月21日(木)14時～ 先着100人
- 干支展～手作りの色々な「いのしし」が揃う
とき 12月21日(木)～1月31日(水)

ゆめさくら交流ホール・実技体験室は、料理講座・体験講座・作品展示会・研修会議等にご利用いただけます。申し込み・問い合わせは事務室まで。

「ふれあい市長室」の日程

- とき 12月9日(土)9時～12時
1月13日(土)9時～12時
- ところ 12月:総領支所 1月:本庁

※公務により実施できない場合もあります。
※道路の改良・維持・修繕などの要望、陳情は、事業担当課へお願いします。

■問い合わせ 情報推進課広報統計係 ☎0824-73-1159

献血のご案内

献血を、つぎのとおり実施します。皆さんのご協力をお願いします。

実施日	会場	受付時間
12月15日(金)	総領健康福祉センター	11時30分～15時

■問い合わせ 保健医療課医療係 ☎0824-73-1155



発見 しょうばら

いよいよウィンタースポーツのシーズン到来。大型ゲレンデから地元の穴場まで市内のスキー場を紹介します。美しい大自然に囲まれてダイナミックにスキーやスノーボードを楽しみましょう。

商工観光課観光交流係 ☎0824-73-1178



ドルフィンバレイ

12月23日オープン

ドルフィンバレイは、人工芝のアストロゲレンデや最新鋭の雪造機で雪不足の心配は無用。初心者から上級者まで思いきり滑れるコースやキッズゲレンデもあり、安心してのびのび滑られます。

リフト券 1日券3,800円
4時間券3,000円

■問い合わせ
ゲレンデ情報 ☎0824-85-2525
総合案内 ☎0824-85-2233



スノーリゾート猫山

12月16日オープン

スノーリゾート猫山は、バリエーション豊かな5コースがあり、ダイナミックな滑りが楽しめます。また、ボードパークが冬を熱く盛り上げます。

リフト券 1日券3,800円
4時間券3,000円

■問い合わせ
ゲレンデ情報 ☎0824-84-2626
総合案内 ☎0824-84-2311



道後山高原スキー場

12月25日オープン

標高1,270mを誇る道後山は比婆道後帝釈国定公園に属します。パノラマコースから望む雄大な中国山地の景観は圧巻。快晴の時には、鳥取県の大山が姿を現すことがあります。

リフト券 1日券3,000円
半日券2,000円

■問い合わせ
ゲレンデ情報 ☎0824-84-2528
総合案内 ☎0824-84-2105



県民の森スキー場 12月17日オープン

中国山地随一の雪質を誇る比婆山山麓のスキー場は、林間を利用した変化に富んだコースで初心者から上級者まで楽しめます。ゲレンデからみるブナ林の樹氷群はすばらしく、滑り心地は最高と評判です。

リフト券 1日券4,000円/半日券3,000円

■問い合わせ ゲレンデ情報 ☎0824-84-2655
総合案内 ☎0824-84-2011

高野高原スキー場 1月オープン

天然雪100%のファミリーゲレンデ(Tバーリフト)です。コースはなだらかで、初心者や子どもでも安心して滑られます。また、市内で唯一の市営スキー場で、市民の利用は半額になります。

営業日 土・日・祝日(水・木・土曜日はナイター営業します。)
リフト券 1日券2,000円(中学生以上)/小学生1,000円

■問い合わせ 高野高原スキー場 ☎0824-86-3004
高野生涯学習係 ☎0824-86-2195



りんご今日話国スキー場 1月オープン

3コースが楽しめる天然雪スキー場です。350mのTバーリフトの頂上からは、りんご畑を望む景色が楽しめます。平日は30,000円でプライベートスキー場として貸し切ることができます。

営業日 土・日・祝日
リフト券 1日券2,500円/半日券1,500円

■問い合わせ りんご今日話国スキー場 ☎0824-86-3000